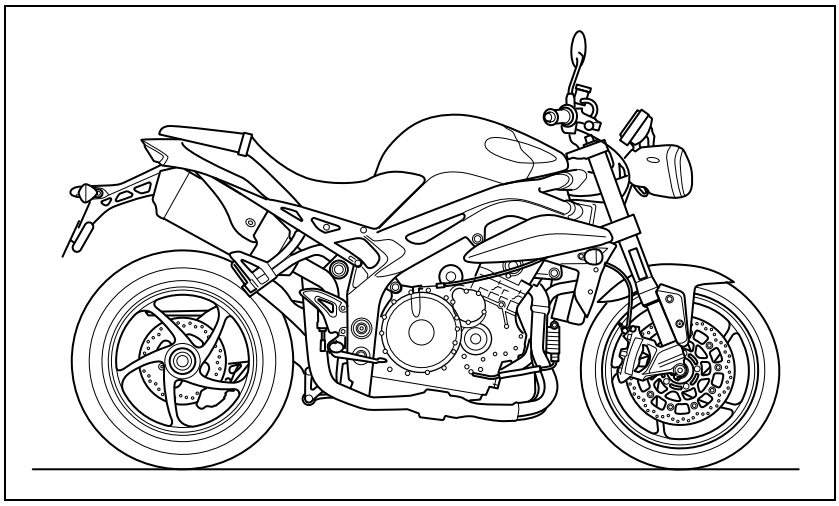
はじめに

本取扱説明書は、Triumph のモーターサイクル Speed Triple および Speed Triple R について解説したものです。この取扱説明書は必ずモーターサイクルと一緒に保管し、必要に応じて参照してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

⚠ 警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 注意

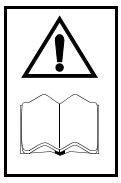
この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- **この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。**

はじめに

警告ラベル



モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行なったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、*10*ページと*11*ページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。

お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウエブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

イモビライザーとタイヤ空気圧モニタリングシステム

本装置はFCC規定パート15に準拠しています。

本装置の動作は次の2つの条件に基づきます。

- 本装置が有害な電波障害を引き起こさないこと。
- 本装置が、好ましくない動作を生じさせる可能性のある電波障害を含め、あらゆる受信障害に対応することができること。

本装置に変更や改良を加えた場合は、利用権限が無効となることがあります。

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。

Triumph 社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

以下の言語の取扱説明書も入手可能です。

- イタリア語
- 英語
- オランダ語
- スウェーデン語
- スペイン語
- ドイツ語
- フランス語

⚠ 警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph との絆

お客様との関係は、Triumph 購入の時点で終わるのではありません。弊社製品を購入されたお客様に、その後体験されたことをフィードバックしていただくことは、製品開発とサービス向上に極めて重要です。代理店にお客様のメールアドレスをお伝えいただき、登録をお願い申し上げます。お客様のメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査書を送信いたしますので、フィードバックをお願い申し上げます。

Triumph チームより。

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なく、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 08.2011 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England.

出版部品番号 3852728 第 1 版

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめに *1*

警告ラベル *10*

部品の名称 *12*

シリアル番号 *15*

一般情報 *17*

モーターバイクの運転 *55*

アクセサリー、積載条件、同乗者 *67*

整備と調整 *71*

保管 *125*

仕様 *127*

はじめに－安全第一

モーターバイク

⚠ 警告

このモーターバイクはオンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。

オフロード走行をした場合、モーターバイクのコントロールが失われて人身事故に帰する恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び / 又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、ライダーを単独で、または（タンデムシートが装備されている場合は）ライダーとひとりの同乗者を一緒に運べる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、（ある場合は）同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、最大車載限度の195 kgを超過してはなりません。

燃料と排気ガス

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です：

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

⚠ 警告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモータバイクを運転することは危険であり、モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

⚠ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- 悪天候
- ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、ブーツ、防護メガネ、グローブ、（膝と足首まわりがフィットする）ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってれくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。

cbma

ハンドルとフットレスト

⚠ 警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、バイクをコントロールしきれなくなって事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

走行中は、ライダーも同乗者も常にフットレストに足をかけていなければなりません。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

駐車

⚠ 警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

⚠ 警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

整備 / 装備

⚠ 警告

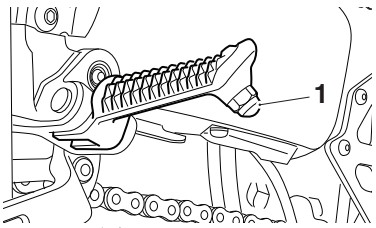
本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph ディーラーに相談してください。

正しく機能していなモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

⚠ 警告

磨耗が許容限度（バンクインジケーターの残り 5 mm）を超えたバンク角指示器を装備したモーターバイクを運転していると、バイクが許容角度以上に傾きます。

危険な角度まで横傾斜するとバイクを不安定な状態にし、制御しきれなくなって事故を起こす恐れがあります。



1. バンク角指示器

⚠ 警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合もあります。不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

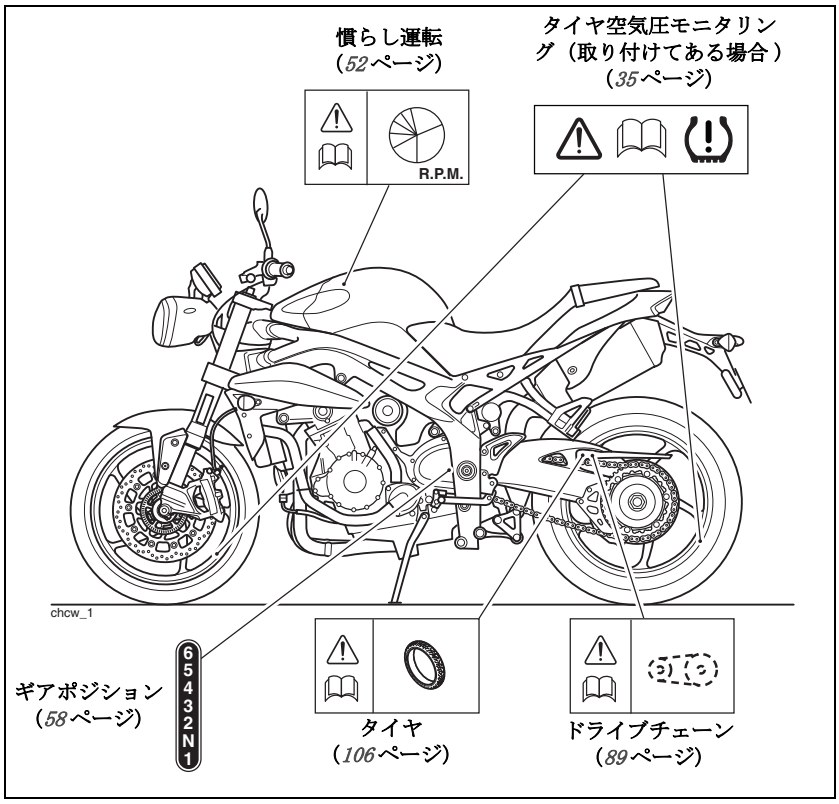
⚠ 警告

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph ディーラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

警告ラベル

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

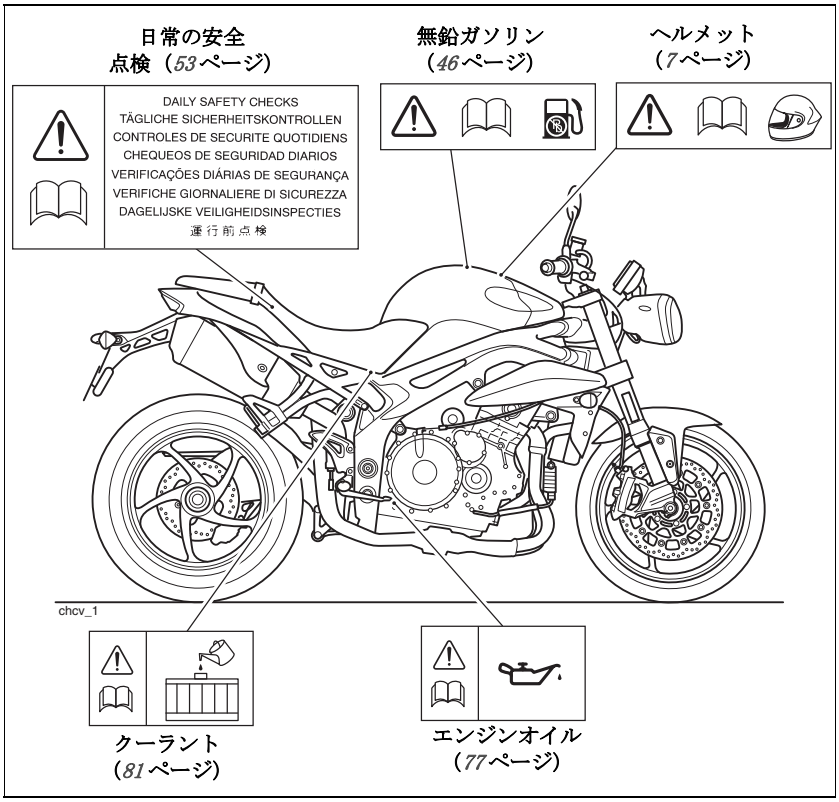
警告ラベルの位置



警告ラベルの位置（続き）

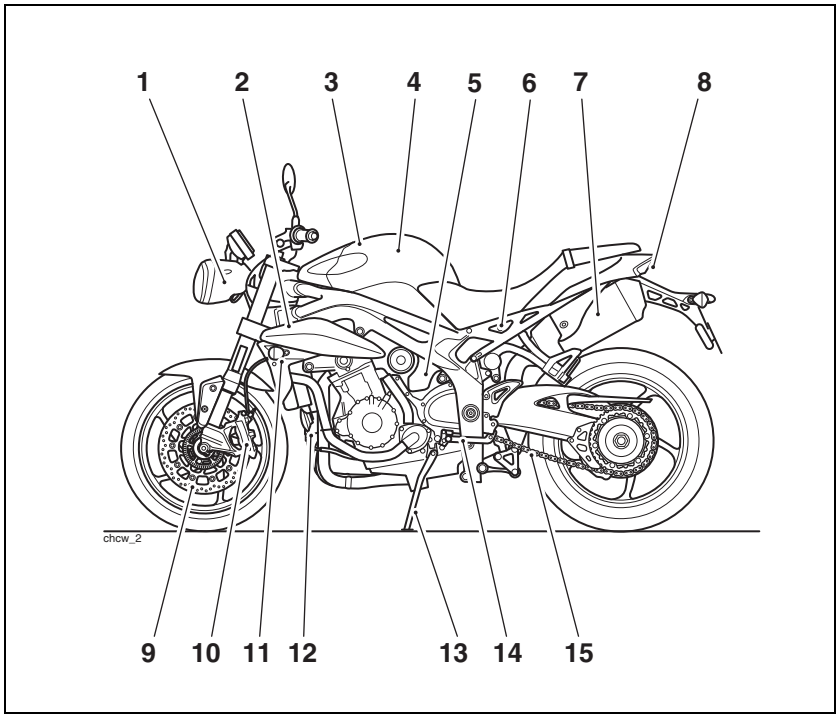
⚠ 注意

慣らし運転ラベルを除いた警告ラベルおよびシールは、強力な接着剤でモーターバイクに貼り付けてあります。場合によっては、ペイントラッカーを塗布する前にラベルを貼り付けている場合もあります。そのため、警告ラベルを剥がそうとすると、塗装面や車体を損傷する恐れがあります。



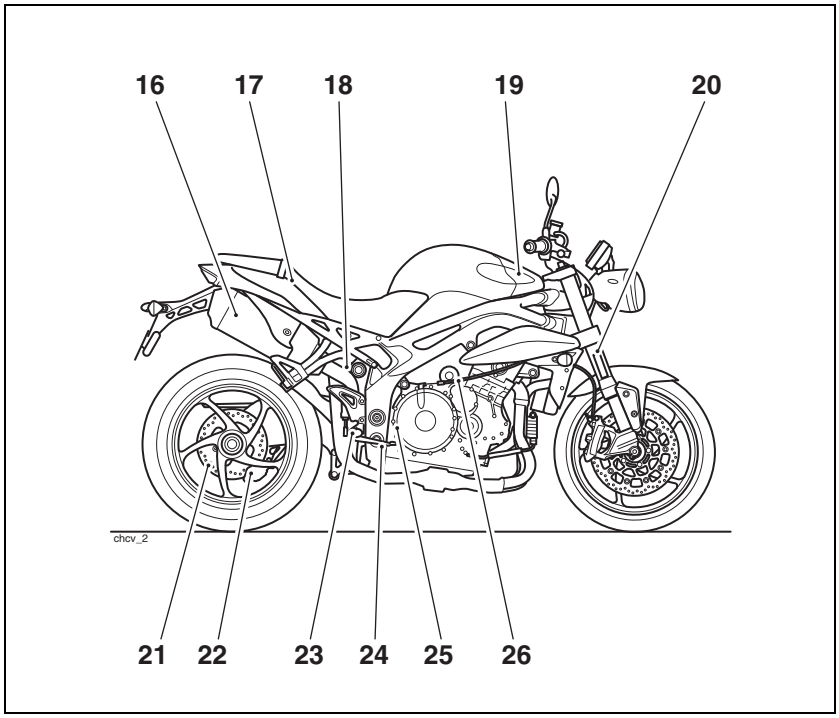
警告ラベル

部品の名称



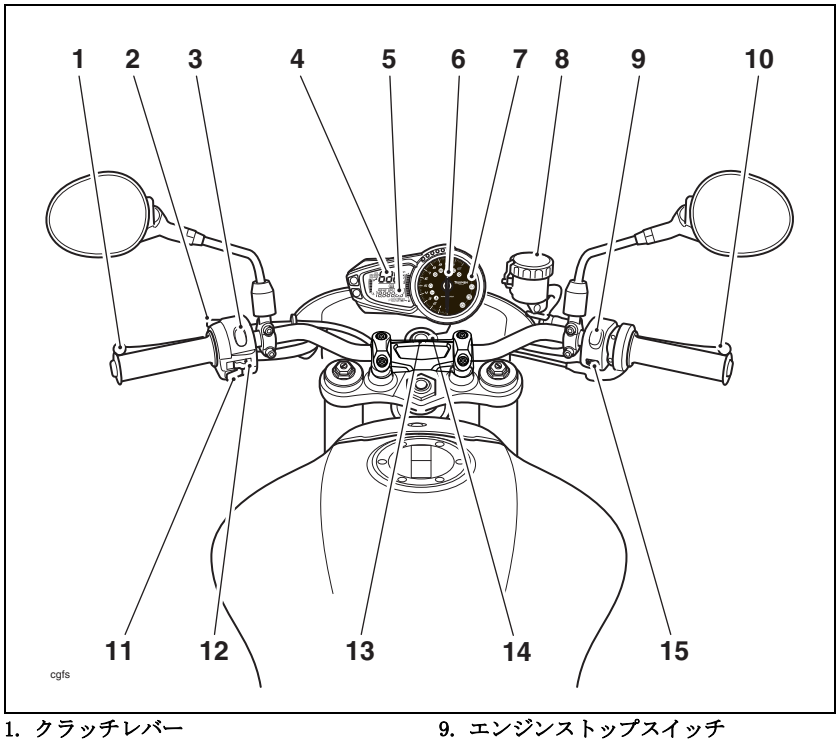
1. ヘッドライト
2. ラジエーター / クーラントプレッシャーキャップ
3. フューエルフィラーキャップ
4. 燃料タンク
5. クーラントリザーバータンク
6. シートロック
7. サイレンサー
8. リアライト
9. フロントブレーキディスク
10. フロントブレーキキャリパー
11. フロントインジケーター
12. オイルクーラー
13. サイドスタンド
14. ギアチェンジペダル
15. ドライブチェーン

部品の名称



16. サイレンサー
17. ツールキット
18. リアブレーキフルードリザーバ
19. バッテリー
20. クーラント膨張タンク
21. リアブレーキディスク
22. リアブレーキキャリパー
23. リアサスペンションユニット
24. リアブレーキペダル
25. オイルフィラーキャップ / ディプスティック
26. クラッチケーブル

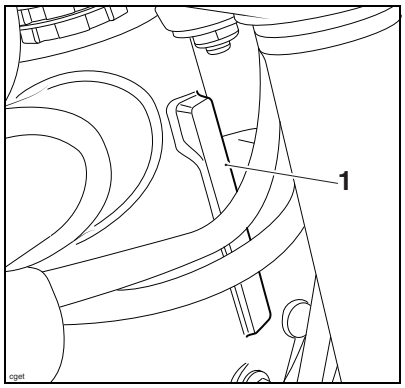
各部の名称（続き）



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ヘッドライトディップスイッチ
4. スピードメーター
5. トリップコンピューターディスプレイ
6. タコメーター
7. 警告灯
8. フロントブレーキフルードリザーバ
9. エンジンストップスイッチ
10. フロントブレーキレバー
11. ホーンボタン
12. 方向指示器スイッチ
13. イグニッションスイッチ
14. イモビライザー
15. スターターボタン

シリアル番号

車体識別番号（VIN）

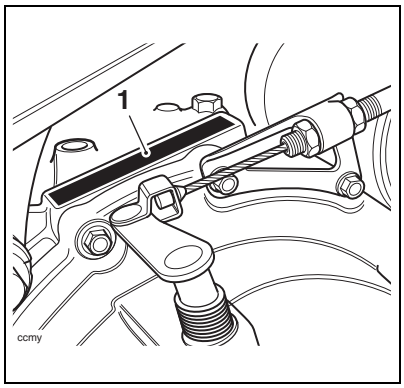


1. 車体識別番号

車体識別番号は、フレームのステアリングヘッドエリア右側に刻印されています。また、ステアリングヘッドの左側にリベットで留めた、プレートにも表示されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

エンジンシリアル番号



1. エンジンシリアル番号

エンジンシリアルナンバーは、クラッチカバーの真上にあるエンジンクランクケースに刻印されています。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

シリアル番号

このページは意図的に空白にしてあります

一般情報

目次

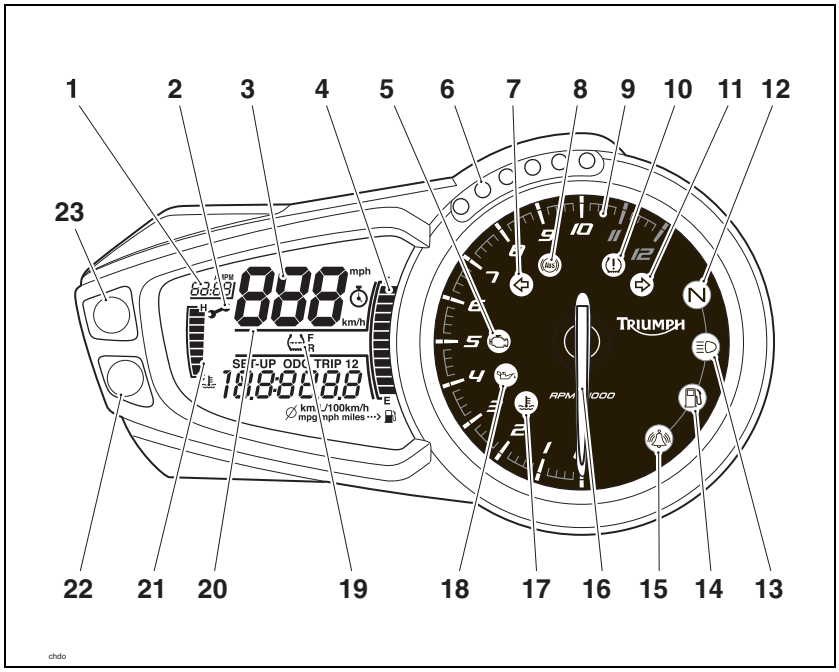
計器盤のレイアウト 20
スピードメーターとオドメーター 21
タコメーター 21
トリップコンピューター 21
オドメーター / トリップメーター 22
　トリップメーター 23
　トリップメーターリセット 23
　オドメーター 24
時計の調節 24
単位の変更（帝国、米国、メートル） 25
ABS 解除（ABS 付きモデルのみ） 26
点検間隔インジケーター 27
ギアチェンジライト 28
　ギアチェンジライトモード 28
　ギアチェンジライトリミットの設定 28
　設定速度の変更 29
　ギアチェンジライトの消灯 30
ラップタイマー 31
　データ記録モード 32
　新しいラップの記録 32
　データ検索モード 33
クーラント温度計 34
燃料計 35
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS） 35
　機能 35
　タイヤ空気圧センサーシリアル番号 36
　フロントセンサー 36
　リアセンサー 36
　システムディスプレイ 36
　センサーバッテリー 37

タイヤ空気圧 37
タイヤの交換 37
警告灯 38
方向指示器 38
ハイビーム 38
燃料低下 38
ニュートラル 38
油圧低下警告灯 38
クーラント過熱警告灯 38
エンジン管理誤作動インジケータランプ 39
アラーム / イモビライザー表示灯 39
タイヤ空気圧警告灯 40
イグニッションキー 41
イグニションスイッチ / ステアリングロック 42
エンジンイモビライザー 42
イグニッションスイッチポジション 42
ブレーキとクラッチレバーアジャスター 43
クラッチレバー 43
ブレーキレバー 44
右ハンドルスイッチ 44
エンジンストップスイッチ 44
スターターボタン 45
左ハンドルスイッチ 45
ヘッドライトディップスイッチ 45
方向指示器スイッチ 46
ホーンボタン 46
パスボタン 46
燃料の条件 / 燃料補給 46
燃料の等級 46
フューエルタンクキャップ 47
燃料タンクへの給油 48
スタンド 49
サイドスタンド 49

一般情報

ツールキットと取扱説明書 49
シートロック 50
　シートケア 50
慣らし運転 52
安全運転 53
　日常の安全点検 53

計器盤のレイアウト



1. 時計
2. 点検間隔インジケーター
3. スピードメーター
4. 燃料計
5. エンジン管理誤作動表示灯
6. ギアチェンジライト
7. 左側の方向指示灯
8. ABS 警告ランプ（ABS モデルのみ）
9. タコメータ「レッドゾーン」
10. タイヤ空気圧警告灯（取り付けてある場合）
11. 右側の方向指示灯
12. ニュートラル表示灯
13. ハイビーム表示灯
14. 燃料レベル低下表示灯
15. アラーム / イモビライザー状況表示灯（アラームは取付アクセサリー）
16. タコメーター
17. クーラント過熱警告灯
18. 油圧低下警告灯
19. タイヤ空気圧ディスプレイ（取り付けてある場合）
20. 表示スクリーン
21. クーラント温度ディスプレイ
22. ボタン B
23. ボタン A

スピードメーターとオドメーター

デジタルスピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。ディスプレイは、モーターバイクの走行速度を１ km 単位で表示します。

電子オードメーターと2個のトリップメーターがスクリーンに表示されます。オドメーターとトリップメーターの使い方に関しては、以下のページを参照してください。

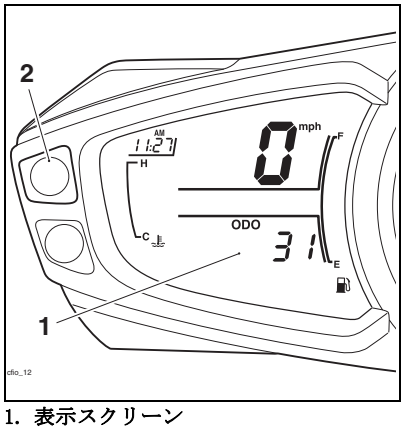
タコメーター

タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm (r/min) で表示します。タコメーターの片側はレッドゾーンです。毎分エンジン回転速度(r/min)がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。

⚠ 注意

エンジンの rpm (毎分回転速度) がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

トリップコンピューター



1. 表示スクリーン
2. ボタン A

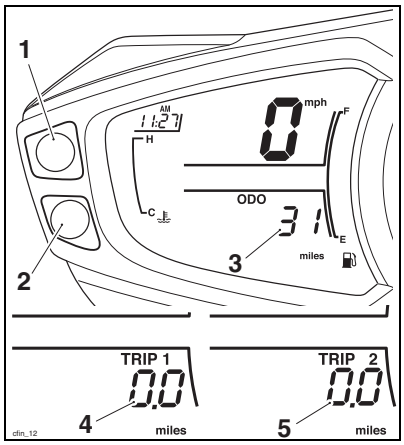
トリップコンピューター情報を得るには、その画面が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返してください。この画面は順番にスクロールします。

- トリップメーター 1
- トリップメーター 2
- ラップタイマー
- タイヤ空気圧モニタリングシステム – 取り付けてある場合
- セットアップ

注記：

- セットアップのラップタイマー（ラップ）をオンにすると、ラップタイマーのみが表示されます（*31* ページを参照）。
- タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）は、正規 Triumph ディーラーが取り付けなければならないアクセサリーです。TPMS ディスプレイは、正規 Triumph ディーラーが表示します。
- セットアップ作業ができるのは、モーターバイクを止めてニュートラルにした場合のみです。

オドメーター / トリップメーター



1. ボタン A
2. ボタン B
3. オドメーター / トリップメーターディスプレイ
4. トリップメーター 1 表示部
5. トリップメーター 2 表示部

トリップメーター

ディスプレイ上のトリップメーターをリセットすると、そのトリップメーターにモーターバイクの走行距離、走行時間、平均燃料消費量、瞬間燃料消費量、平均速度が表示されます。

トリップメーター情報を入手するには、イグニッションを ON にします。所期のトリップメーターが画面に表示されるまで、ボタンAを押して指を放すことを繰り返してください。

所期の画面が表示されるまで、ボタンBを押して指を放すことを繰り返してください。この画面は順番にスクロールします。

- 走行距離
- 残燃料ゼロまでの可航距離
- 走行時間
- 平均燃料消費量
- 瞬間燃料消費量
- 平均速度

トリップメーターを前回リセットしているので、以下のように測定した情報が画面に表示されます。

走行距離

総走行距離。

残燃料ゼロまでの可航距離

これは、タンクに残っている燃料で走行可能な距離を表しています。

走行時間

経過時間

平均燃料消費量

平均燃料消費量の表示リセット後、0.1 km に達するまではダッシュ記号が表示されます。

瞬間燃料消費量

瞬間の燃料消費量の表示。

平均速度

平均速度は、トリップコンピューターを最後にリセットした時から計算されます。リセット後、1 kmに達するまではダッシュ記号が表示されます。

⚠ 警告

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

トリップメーターリセット

一方のトリップメーターをリセットするには、リセットするトリップメーターを選択して画面に表示し、ボタンBを２秒間押してください。2 秒経過すると、表示部上のトリップメーターはゼロにリセットされます。

注記：

- **トリップメーターをゼロにリセットすると、同時に走行時間、平均燃料消費量、平均速度もゼロにリセットされます。**

トリップメーターを終了するには、次の所期画面が表示されるまで、ボタンAを押して指を放すことを繰り返してください。

オドメーター

イグニッションをオンにすると、オードメーターが3秒間表示され、前回選択したトリップメーターが表示されます。

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

オードメーター画面にするには、モーターバイクを止めてニュートラルにし、set up画面が表示されるまでボタンAを繰り返して押し、次にボタンBを押してください。オードメーターが表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。

オードメーターを終了するには、rEturnが表示されるまでボタンAを押して指を放すことを繰り返し、次にボタンBを押してください。Trip 1が画面に表示されます。

時計の調節

⚠ 警告

モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

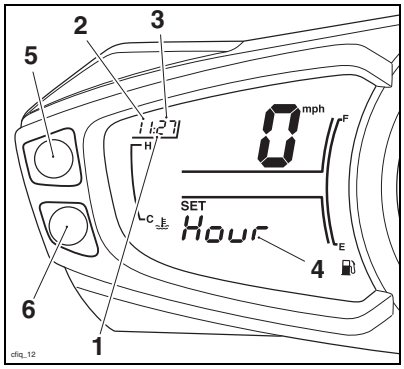
時計をリセットするには、モーターバイクを止めてニュートラルにし、イグニッションをONポジションにします。set upが画面に表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。ボタンBを押すと、t-SEtが表示されます。

再びボタンBを押すと、24 Hrまたは12 Hr時間が表示されます。ボタンAを押して所期の時計ディスプレイを選択し、ボタンBを押します。時間表示が点滅し、Hour が画面に表示されます。

時刻表示をリセットする際、時間表示が点滅し、Hour が表示されていることを確認してください。ボタンAを押して設定を変更します。ボタンを1回押すごとに、設定がひとけたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

適切な時間が表示されたら、ボタンBを押します。分表示が点滅し、Minが画面に表示されます。分は、時と同じやり方で合わせます。

時と分を設定したら、ボタン B を押して t-SEt　が表示されるのを確認します。rEturn が表示されるまでボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。Trip 1 が画面に表示されます。



1. 時計ディスプレイ
2. 時
3. 分
4. 表示スクリーン
   （調整のため選択した Hour）
5. ボタン A
6. ボタン B

単位の変更（帝国、米国、メートル）

以下のように単位は 4 モードで表示されます。

- mpg – 英ガロン
- mpg US – 米ガロン
- L/100 km – メートル法
- km/L – メートル法

各ディスプレイに以下のデータが表示されます：

mpg（英ガロン）

スピードメーターとオードメーターはマイル表示です。燃料消費量は英ガロンで測ります。

mpg US（米ガロン）

スピードメーターとオードメーターはマイル表示です。燃料消費量は米ガロンで測ります。

L/100 km（メートル法）

スピードメーターとオードメーターはキロメートル表示です。　燃料消費量は 100 km ごとの燃料量（リッター）で測ります。

km/L（メートル法）

スピードメーターとオードメーターはキロメートル表示です。燃料消費量は燃料量（リッター）ごとのキロメートルで測ります。

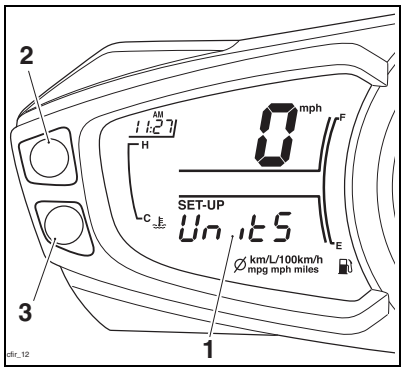
⚠ 警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こしかねないので、走行中に単位表示を変更しないでください。

単位表示の作業をするには、モーターバイクを止めてニュートラルにし、イグニッションを ON ポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。

UnitS が表示されるまでボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。



1. 表示スクリーン
2. ボタン A
3. ボタン B

所期の画面が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返してください。この画面は順番にスクロールします。

- mpg – 英ガロン
- mpg US – 米ガロン
- L/100 km – メートル法
- km/L – メートル法

TPMS なしのモデル: ボタン B を押し、UnitS が画面に表示されるまで、ボタン A や B に触らないようにします。UnitS が画面に表示されたら、rEturn が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。Trip 1 が画面に表示されます。

TPMS 付きのモデル: ボタン B を押し、PSI や bAr が画面に表示されるまで、ボタン A や B に触らないようにします。タイヤ空気圧単位が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。ボタン B を押し、UnitS が表示されるまで待ち、次にボタン A を押し、rEturn が表示されたらボタン B を押します。Trip 1 が画面に表示されます。

ABS 解除（ABS 付きモデルのみ）

ABS システムは、一時的に解除することができます。ABS システムを永久に無効化することはできません。イグニッションをオフした後、再度オンすると、ABS システムは有効な状態になります。

⚠ 警告

ABS が解除されている場合は、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして機能します。その場合、急ブレーキをかけるとホイールがロックされ、制御不能となって事故につながることがあります。

ABS 解除方法

ABS 解除機能を表示するには、イグニッションをオンポジションにします。

ボタン A を繰り返し押し、set up がスクリーンに表示されたら、次にボタン B を押します。

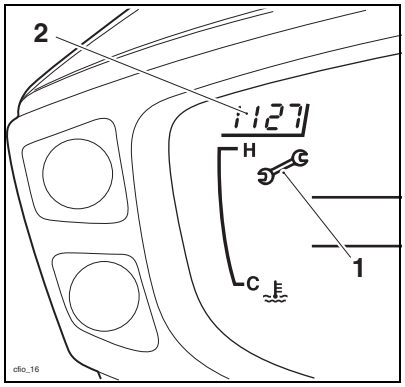
ABS が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押します。

ボタンBを押すとABSシステムが解除されます。ABS OFF のメッセージが 2 秒間表示され、ABS 警告灯が点灯します。

ABS 復帰方法

ABS システムを復帰させるには、イグニッションをオフしてからもう一度オンします。

点検間隔インジケーター



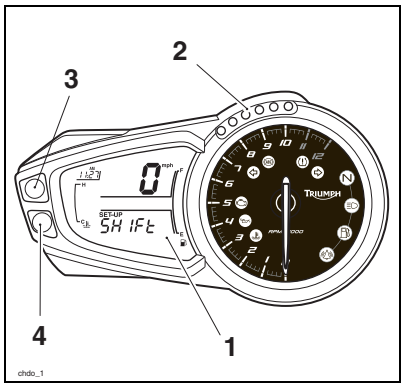
1. 点検インジケーター
2. 残り距離

イグニッションのスイッチを入れた時に、次回点検までの距離が 800 km を切った場合、点検マークが 3 秒間表示され、次回点検までの残り距離を表示します。

残り距離が 0 km の場合、点検を実施するまで点検記号が点灯したままになり、システムのリセットは正規Triumphディーラーが行います。点検が遅れている場合、距離はマイナスの数字で表示されます。

ギアチェンジライト

ギアチェンジライトの点灯で、ギアチェンジが行われたことを示します。ギアシフトライトはすべて青い色です。



1. 表示スクリーン
2. ギアチェンジライト
3. ボタン A
4. ボタン B

ギアチェンジライトモード

ギアチェンジライトには、以下のように設定可能な 4 通りの操作モードがあります:

- 3 LED モード: 最初の３つのライトは限界に達すると点灯し、エンジン回転速度が設定を下回るまで点灯した状態を保ちます。
- 6 LED モード: 6 個のライトはそれぞれ設定値に達すると点灯し、エンジン回転速度が設定値を下回るまで点灯した状態を保ちます。
- OFF モード: ギアチェンジライトが OFF です。
- SE モード:設定リミットに達するまでは、ライトが 250 rpm 単位で点灯します。設定リミットに達すると、6 個のライトがすべて点灯します。

ギアチェンジライトリミットの設定

ギアチェンジランプは、ランプがアイドルの状態で作動するのを避けるために、3,500 rpm 以下で作動します。

ギアチェンジライトモードを変更するには、モーターバイクを止めてニュートラルにし、イグニッションを ON ポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。

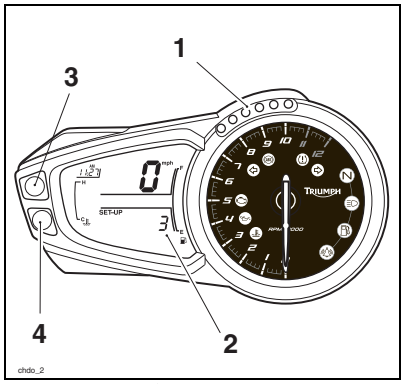
SHIFt が表示されるまでボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。現在のモードが表示され、対応するギアチェンジライトが点灯します。

所期ギアチェンジライトモードが表示されるまでボタンAを押して指を放すことを繰り返し、次にボタン B を押してください。この画面は順番にスクロールします。

- SE (Scale モード)
- 3 (3LED モード)
- 6 (6LED モード)
- OFF (ギアチェンジライト消灯)

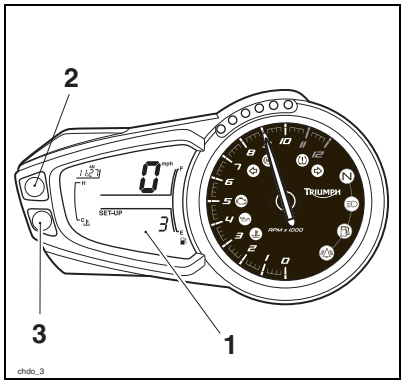
注記：

- **3500 rpm で 6 LED モードに設定した、ギアチェンジライトセット付きモーターバイクが工場から納車されます。**



1. **ギアチェンジライト**
2. **表示スクリーン（図は 3 モード）**
3. **ボタン A**
4. **ボタン B**

ギアチェンジライトモードを選択すると、タコメーターの針が前回設定した位置に行きます。1,000 単位で点滅し、rpm が画面に表示されます。



1. **1,000 単位 rpm**
2. **ボタン A**
3. **ボタン B**

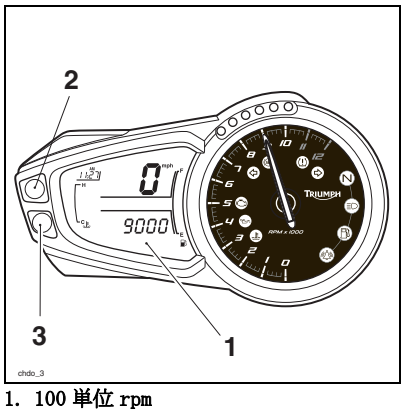
設定速度の変更

設定を 1,000 rpm 単位で変更するには、ボタン A を押してください。ボタン A を 1 回押すごとに、最大 rpm まで 1,000 rpm ずつ増加して設定できます。最大rpmに達すると、設定が 3,500 rpm に戻ります。

注記：

- **1,000 単位の rpm が最大 rpm に設定されると、SHIFt が表示されます。**

適切な設定が表示されたら、ボタン B を押して 100 単位の rpm を点滅させます。



1. **100 単位 rpm**
2. **ボタン A**
3. **ボタン B**

最大 rpm まで、100 rpm 単位で設定を変えることができます。

注記：

- **本モードで 900 に達し、さらにボタン A を押すと、表示が 000 にリセットされます。**

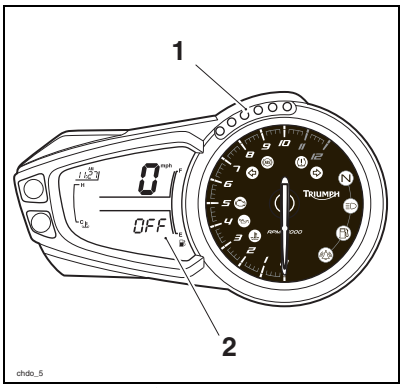
ボタン A を押すごとに、設定が 100 rpm ずつ増加します。

適切な設定が表示されたら、ボタン B を押して設定を確定すると、SHIFt が画面に表示され、ギアチェンジライトがすべて点滅します。

rEturn が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタン Bを押してください。Trip 1が画面に表示されます。

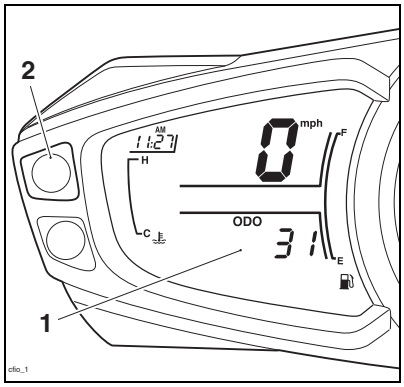
ギアチェンジライトの消灯

OFF モードを選択するには、画面に OFF が表示されているか確認します。ボタンBを押すと、SHIFt が画面に表示されます。rEturn が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返し、次にボタンBを押してください。Trip 1が画面に表示されます。



1. **ギアチェンジライト**
2. **表示スクリーン（図は OFF モード）**

ラップタイマー



1. 表示スクリーン
2. ボタン A

ラップタイマーは以下のデータを表示します：ラップタイム、ラップタイムナンバー、平均速度、最大速度、走行距離。各ディスプレイに以下のデータが表示されます：

ラップタイム

ラップの経過時間（ラップナンバーがスピードメーターディスプレイに表示されます）。データは前回リセットして以降から記録されてます。

注記：

- **100 分後、ラップタイマーがゼロにリセットされます。**

ラップのナンバー

最後にリセットされた時から記録されたラップのナンバーが表示されます。ラップタイマーには最高 50 ラップが記録されます。

最高速度

ラップあたり達成した最高速度とラップナンバー。

平均速度

ラップあたり達成した平均速度とラップナンバー。

走行距離

ラップあたり達成した走行距離とラップナンバー。

ラップタイマーのオンまたはオフ

ラップタイマーのオンオフを行うには、モーターバイクを止めてニュートラルにし、イグニッションを ON ポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。ボタン「B」を押します。

Lap が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。ONまたはOFFにすると表示スクリーンが点滅します。

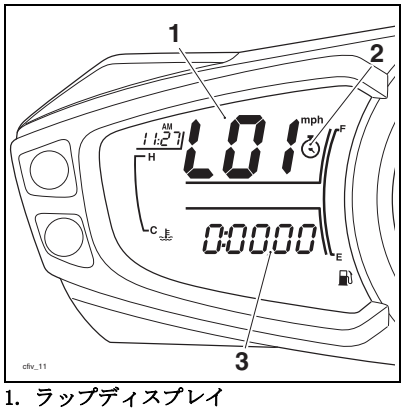
ボタンAを押して所期のディスプレイを選択し、ボタン B を押します。Lap がディスプレイに表示されるまで、ボタン A やボタン B に触れないでください。rEturn が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。Trip 1 が画面に表示されます。

ラップタイマーには、データ記録とデータ検索の 2 種類のモードがあります。

⚠ 警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こす恐れがあるため、走行中にラップタイマーの表示モードを切り替えないでください。

データ記録モード



1. ラップディスプレイ
2. ストップウォッチアイコン
3. ラップタイム

注記：

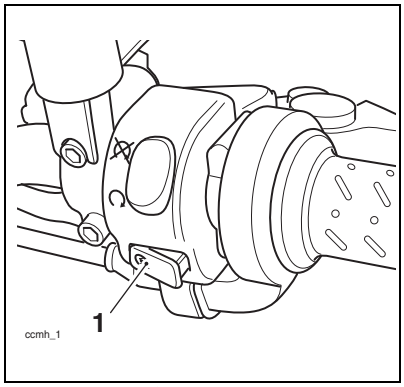
- **ラップタイマー（ラップ）をオンにすると、データ記録モードとデータ検索モードのみ作動します。**

データ記録モードを選択するには、イグニッションキーをONポジションにします。

Lap が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。L01 とストップウォッチのアイコンがスピードメーターディスプレイに表示され、ラップタイマーが表示スクリーンに表示されます。

スターターボタンを押すと（エンジンがかかっている場合）ラップタイマーがスタートします。ディスプレイには分、秒、100 分の 1 秒単位のラップタイムが表示され、ストップウォッチアイコンが点滅します。

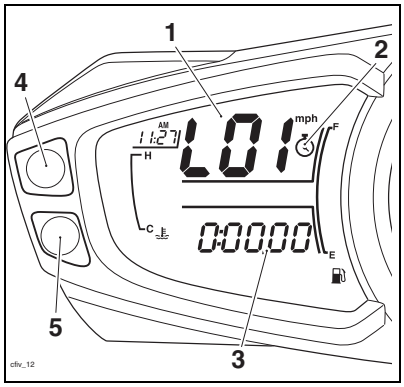
新しいラップの記録



1. スターターボタン

ラップの終わりに再度スターターボタンを押すと、新しいラップのスタートが登録されます。5 秒間にわたって前のラップタイムがディスプレイに表示され、続く次の 5 秒間は新ラップタイムが表示されます。その後、スピードメーターディスプレイに現在のラップナンバーが表示され、表示スクリーンに現在のラップタイムが表示されます。

データ検索モード



1. ラップナンバー
2. ストップウォッチアイコン
3. ラップタイマー
4. ボタンA
5. ボタンB

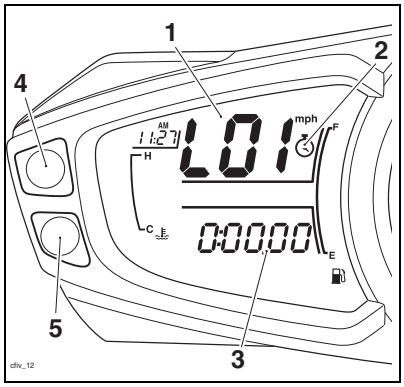
データ検索モードに切り替えるには２つの方法があります：

- イグニッションをONポジションにして、ラップタイマーディスプレイのBボタンを押します。
- エンジンがかかっていてバイクを停車させた状態で、データ記録モードのスターターボタンを２秒間押します。すると、ディスプレイが「Lap」に戻ります。そしたら、ボタンBを押します。

注記：

- **モーターバイクで走行中、データ検索モードに切り替えることはできません。**

データ検索モードに切り替えると、一番目のラップのタイムが表示されます。ラップナンバーがスピードメーターのディスプレイに表示されます。



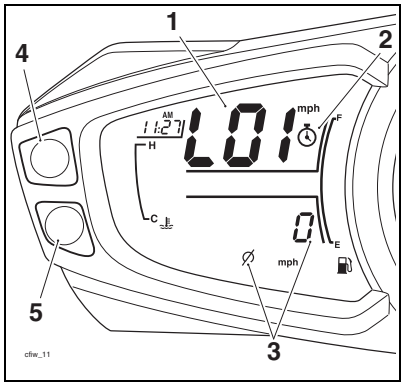
1. ラップナンバー
2. ストップウォッチアイコン
3. ラップタイマー
4. ボタンA
5. ボタンB

所期のラップ（最高 50 ラップまで）が表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。

ボタンBを繰り返し押して、以下の順序でデータをスクロールします。

- 平均速度（ラップ毎のまたはラップ全体）
- 最高速度（ラップ毎またはラップに記録されている最高速度）

- 走行距離（ラップ毎のまたはラップ全体）
- ラップタイム



1. ラップナンバー
2. ストップウォッチアイコン
3. データ検索モード（図は平均速度）
4. ボタン A
5. ボタン B

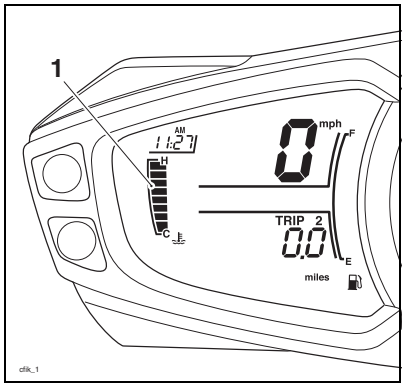
速度と距離は、スピードメーターの単位に基づき、キロメートルまたはマイルで表示されます。

ラップタイマーのリセットと終了

ラップタイマーのリセットと終了は、2 秒間ボタン B を押します。2 秒後、ラップタイマーがリセットされてLapがスクリーンに表示されます。これで保存されている全ラップのデータが削除されます。

ラップタイマーをリセットせずにデータ検索モードを終了するには、2 秒間ボタン A を押すと表示スクリーンに Lap が表示されます。所期の画面が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。

クーラント温度計



1. クーラント温度計

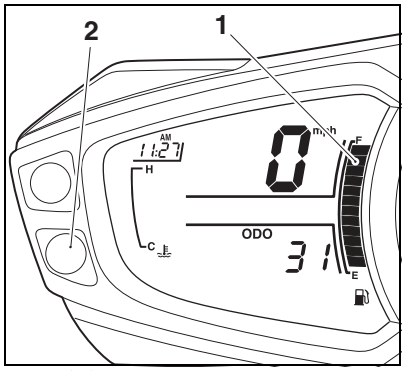
クーラント温度計はエンジンクーラントの温度を表示します。

イグニッションスイッチを入れると、表示部の 8 本のバーすべてが表示されます。冷えた状態でエンジンをスタートすると、バーが 1 本だけ表示されます。温度が上がるにつれて、ディスプレイに表示されるバーの数も増えます。エンジンが暖まっている状態で始動すると、エンジンの温度に応じた数のバーが表示されます。

通常の温度の場合、バーが 3 ～ 5 本表示されます。

クーラント温度が高くなり過ぎると、ディスプレイに表示されるバーの数が8本となり、点滅します。タコメーターのクーラント過熱警告灯も点灯します。

燃料計



1. 燃料計
2. ボタン B

燃料計はタンクに入っている燃料の量を表示します。

イグニッションのスイッチを入れると、ディスプレイにバーが表示され、バーの数は燃料レベルを示します。

燃料タンクが満タンの場合、ディスプレイに 12 本のバーが表示され、空の場合は全く表示されません。それ以外の場合、燃料レベルが満タンと空の間にあることを示しています。

バーの表示が 2 本になると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。これは、タンクに約4.5リッターの燃料しか残っていないことを示し、速やかに給油するように促すものです。トリップメーターの画面が表示されている場合は、ボタン B を繰り返し押して残燃料ゼロまでの可航距離を表示することができます。

給油後、モータバイクに乗っている場合のみ、燃料計と空になるまでの残走行距離に関する情報が更新されます。乗車姿勢によりますが、更新されるまで最大 5 分かかります。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）

（TPMS が装備されているモデルのみ）

⚠ 警告

TPMS が装着されていても、日常的なタイヤ空気圧点検を怠ってはいけません。正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ冷間時に空気圧を測定してください（*106* を参照）。

TPMS をタイヤ空気圧の設定に使用すると、空気圧を正しく設定できず、モーターサイクルを制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

機能

フロントホイールとリアホイールに、タイヤ空気圧センサーを取り付けています。センサーでタイヤ内部の空気圧を測定し、圧力データを計器に送信します。モーターバイクの走行速度が 20 km 以上になるまで、センサーはデータを送信しません。タイヤ空気圧信号を受信するまで、ディスプレイエリアは2本のダッシュ記号が表示されます。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）は、アイテムに取り付けるアクセサリーであり、正規 Triumph ディーラーが取り付けなければなりません。システムを取り付けると、計器パックの TPMS ディスプレイが表示されます。

バルブ近くにあるタイヤ空気圧センサーの位置を示す、粘着ラベルをホイールリムに貼り付けます。

タイヤ空気圧センサーシリアル番号

各タイヤ空気圧センサーのシリアル番号は、センサーに貼り付けられているラベルに印字されています。正規販売店での点検時および診断時に、このシリアル番号が必要になることがあります。

TPMS が工場で取り付けられた場合は、フロントとリアのタイヤ空気圧センサーのシリアル番号が印字されたラベルがそれぞれ以下の空欄に貼り付けられています。

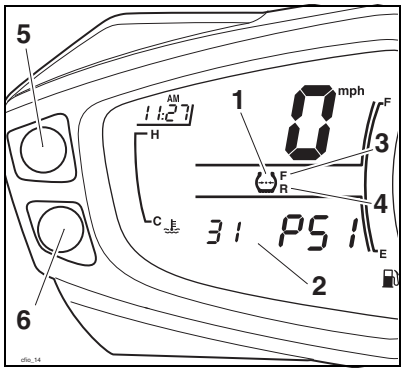
TPMS をアクセサリーとして取り付けた場合は、正規販売店でフロントとリアのタイヤ空気圧センサーのシリアル番号を以下の空欄に記入してもらってください。

フロントセンサー	リアセンサー

システムディスプレイ

⚠ 警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こす恐れがあるため、走行中にフロントとリアタイヤ表示モードを切り替えないでください



1. TPMS 記号
2. タイヤ空気圧ディスプレイ
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. ボタン A
6. ボタン B

タイヤ空気圧を表示するには、イグニッションを ON にします。

psi または bAr が画面に表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。

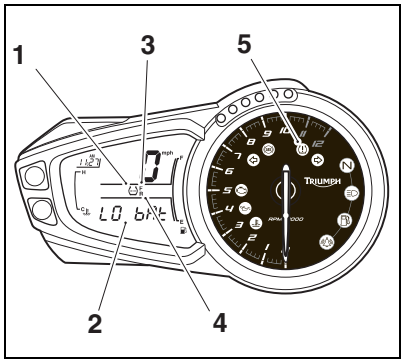
ボタン B を繰り返し押して、フロントまたはリアタイヤ空気圧を選択します。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを選択すると、モーターバイクの走行速度が 20 km/h 以上になるまで、～ psi または bAr が画面に表示され、タイヤ空気圧信号を受信します。

圧力ディスプレイを終して、表示したい期画面になるまでボタンAを繰り返して押します。

センサーバッテリー

圧力センサーのバッテリー電圧が低いとLO bAtが表示され、どのホイールセンサーが低バッテリー電圧なのかをTPMS記号が示します。バッテリーが完全に上がっている場合、画面にはダッシュ記号のみが表示され、赤色のTPMS警告灯が点灯し、TPMS記号が継続して点滅します。正規Triumphディーラーに連絡してセンサーを交換してもらい、新しいシリアル番号を *36* ページの空欄に記入します。



1. TPMS記号
2. 表示スクリーン
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. TPMS警告灯

イグニッションスイッチをONポジションにした時、TPMS 記号が点滅したままで、TPMS警告灯が点灯したままの場合は、TPMSシステムの故障です。正規Triumphディーラーに連絡して、故障の修理依頼をします。

タイヤ空気圧

計器パネルに表示されたタイヤ空気圧は、ディスプレイを選択した時のタイヤ空気圧です。タイヤが冷えている時のタイヤ空気圧と異なるのは、運転中にタイヤが温められてタイヤの空気が膨張し、圧力が高まったためです。Triumphが規定した冷タイヤ空気圧は、これを考慮に入れています。

高精度のタイヤ空気圧力計の使用時にタイヤが冷えている場合、オーナーはタイヤ空気圧力計（*106* ページ参照）を調整し、計器に表示されたタイヤ空気圧をそのまま採用しないでください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧を調整する際、タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤ空気圧力計として使用しません。正しいタイヤ空気圧に関しては、必ずタイヤが冷えている時にタイヤ空気圧をチェックし、かつ高精度のタイヤ空気圧力計を使用します（*122*ページ参照）。

タイヤ空気圧の設定にTPMSシステムを使用すると、タイヤ空気圧が不正確になり、モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こす恐れがあります。

タイヤの交換

タイヤを交換する際、タイヤにタイヤ空気圧センサーがホイールに付いていて、必ず正規Triumphディーラーにタイヤを取り付けてもらうようにします。（*108* ページ参照）

警告灯

方向指示器

インジケータースイッチを左右いずれかに回すと、方向指示器灯がターンインジケーターと同じテンポで点滅します。

ハイビーム

ハイビーム警告ランプは、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

燃料低下

タンク内の残存燃料が約4.5 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

ニュートラル

ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチが ON の状態でギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

油圧低下警告灯

エンジンがかかっている状態で、エンジン油圧が危険レベルに低下した場合、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。

⚠ 注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターの油圧低下警灯が点灯します。

クーラント過熱警告灯

エンジンがかかっている状態でエンジンクーラントの温度が危険レベルになった場合、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

⚠ 注意

クーラント過熱警告灯が点灯したら、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

クーラント過熱警告灯が点灯している状態でエンジンが回転していると、エンジンに多大な損傷をもたらします。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に(それが機能していることを示すために)点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になっても、故障が、エンジンがかからない程深刻でなければ、エンジン管理システムは旅程を走破できるように「リンプ・ホーム」モードにスイッチを切り替えます。

⚠ 警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅（点いたり、消えたりをくり返す）する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。**

アラーム / イモビライザー表示灯

この Triumph モデルは、イグニッションスイッチを OFF ポジションにすると作動する、エンジンイモビライザーを取り付けています。モーターバイクにアクセサリーアラームを取り付けてあれば、イモビライザーが平常に作動しますが、アラーム/イモビライザーライトは以下のように点灯します。

アラーム付き

アラーム / イモビライザーランプは、アクセサリアラームの解説に記されている条件に合致した場合のみ点灯します。

アラームなし

イグニッションスイッチをOFFポジションに回すと、アラーム / イモビライザーライトが 24 時間点滅を繰り返し、エンジンイモビライザーがオンであることを示します。イグニッションスイッチをONポジションに回すと、イモビライザーとインジケーターライトが消灯します。

インジケーターライトがオンのままである場合、イモビライザーが不具合であることを示し、検査が必要です。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

ABS （アンチ－ロックブレーキシステム）インジケーターランプ

(ABS が装備されているモデルのみ)

イグニッションスイッチをONポジションに回すと、ABS 警告灯が点滅するのが正常です。エンジンを始動してからライトが点滅し続けますが、モーターバイクが 10 km/h を超えた時点で消灯します。

ABS システムを解除しない限り（*26*ページを参照）、あるいは故障がない限り、エンジンを再始動させるまで再度点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケーターランプが点灯するのは、ABS に誤動作が生じたからであり、点検が必要です。

⚠ 警告

ABS が機能しないと、ブレーキシステムがノンABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケーターランプが点灯したままの状態で、長く走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

59 ページのブレーキ操作についても参照してください。

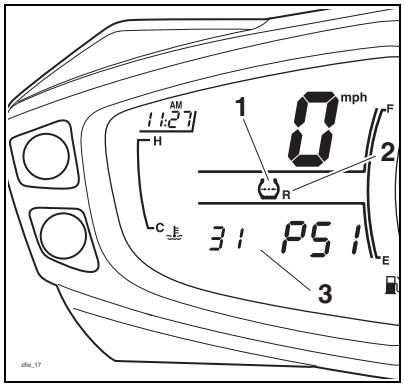
タイヤ空気圧警告灯

(TPMS が装備されているモデルのみ)

タイヤ空気圧警告灯は、タイヤ空気圧モニタリングシステムと一緒に作動します（*35* ページ参照）。

フロントまたはリアタイヤの空気圧が、奨励圧力以下の場合のみ、警告灯が点灯します。タイヤの空気圧が過剰な場合、点灯しません。

警告灯が点灯すると、どちらのタイヤの空気が抜けているかを教えてくれる TPMS 記号と、空気圧が自動的にディスプレイエリアに表示されます。



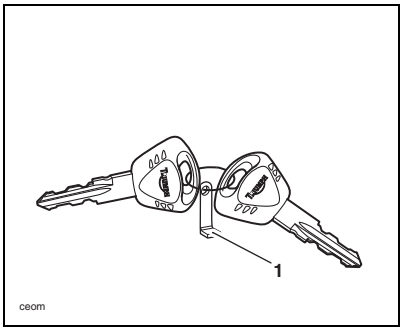
1. TPMS 記号
2. リアタイヤ
3. タイヤ空気圧

警告灯が点灯するタイヤ空気圧は、20 ℃に温度補償されていますが、その数字で表示される圧力は補償されません（*37* ページ参照）。数字の表示が標準タイヤ空気圧か、その近似値であったとしても、警告灯が点灯したことはタイヤの空気圧が低いことを示し、通常はパンクが考えられます。

⚠ 警告

タイヤ空気圧警告灯が点灯したら、モーターバイクを止めます。タイヤをチェックし、タイヤが冷えた状態で、タイヤ空気圧が奨励圧力であることを確認するまでは、モーターバイクを運転しないでください。

イグニッションキー



1. キーナンバータグ

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるだけでなく、シートロックとフューエルタンクキャップを操作する際にも必要です。

本モーターバイクが工場出荷される際には、キーが 2 個とキーナンバーを記した小さなタグが支給されます。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターバイクから離れた安全な場所に保管してください。

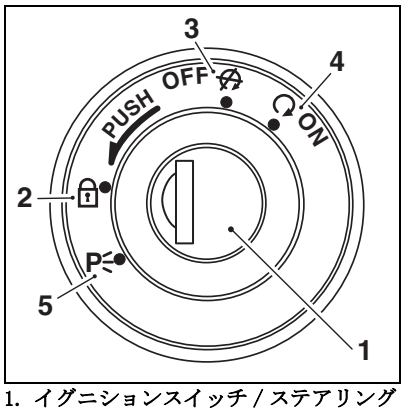
エンジンイモビライザーをオフにする、トランスポンダーがキーに内蔵されています。イモビライザーが正常に機能するか確認するため、イグニッションスイッチ近くのイグニッションキーを、常に一つだけ持つようにしてください。スイッチ近くの 2 個のイグニッションキーを持つと、トランスポンダーとエンジンイモビライザー間で、イネーブル信号を妨害する場合があります。この状況下で、イグニッションキーを 1 個外すまでは、エンジンイモビライザーがオンのままとなります。

必ず、スペアキーを正規 Triumph ディーラーから入手してください。スペアキーは、正規 Triumph ディーラーに、モーターバイクのイモビライザーと「ペア」にしてもらってください。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

イグニションスイッチ / ステアリングロック



1. イグニションスイッチ / ステアリングロック
2. LOCK ポジション
3. OFF ポジション
4. ON ポジション
5. PARK ポジション

エンジンイモビライザー

イグニッションバレルハウジングは、エンジンイモビライザーのアンテナとして作用します。

イグニッションスイッチをOFFポジションに回し、イグニッションキーを抜くと、エンジンイモビライザーがオンになります (*39* ページ参照)。イグニッションキーがイグニッションスイッチにあり、ON ポジションに回すと、エンジンイモビライザーがオフになります。

イグニッションスイッチポジション

これはポジションが４つある、キー作動型スイッチです。キーは OFF、LOCK、または P (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

ロックするには： 左側にステアリングを目一杯回し、キーを OFF ポジションに回し、キーを押してから放し、最後に LOCK ポジションに回してください。

駐車：LOCK ポジションから P ポジションにキーを回してください。ステアリングはロックされたままです。

注記：

- **ステアリングロックを長い間 P ポジションにセットしたままにしないでください。バッテリが上がる原因となります。**

⚠ 警告

モーターバイクから離れる場合、万一のために必ずイグニションスイッチを OFF ポジションにしてキーを抜き取ってください。

モーターバイクを無免許で乗り回した場合、ライダー自身や他の道路使用者、歩行者の負傷の原因となり、バイクの損傷にもつながりかねません。

⚠ 警告

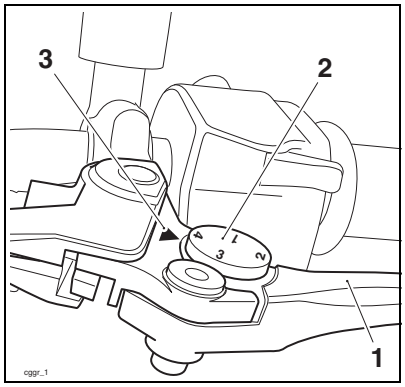
キーが LOCK や P ポジションにあると、ステアリングがロックされます。

バイクが走行中は、絶対に、キーを回して LOCK または P ポジションに入れたりしないでください。ステアリングがロックされるからです。ステアリングがロックされると、バイクは制御不能に陥って事故を招くことがあります。

ブレーキとクラッチレバーアジャスター

フロントブレーキとクラッチレバーの両方にアジャスタがあります。このアジャスタを使うと、ハンドルバーからレバーまでの間隔を、操縦者の手の大きさに合わせて変えることができます。

クラッチレバー

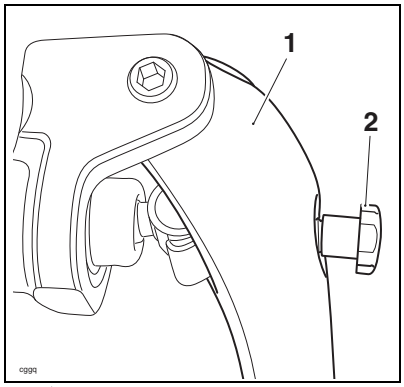


1. **クラッチレバー**
2. **アジャスターホイール**
3. **三角マーク**

クラッチレバーを調整するには、それぞれのレバーを前の方に押してアジャスターホイールを回し、番号のついたポジションのひとつをレバーホルダー上の三角マークに合わせます。

ハンドルバーグリップと握られていないレバーの間隔は、4 番にセットした時に最も短くなり、1 番にセットした時に最も長くなります。

ブレーキレバー



1. ブレーキレバー
2. 調整ネジ

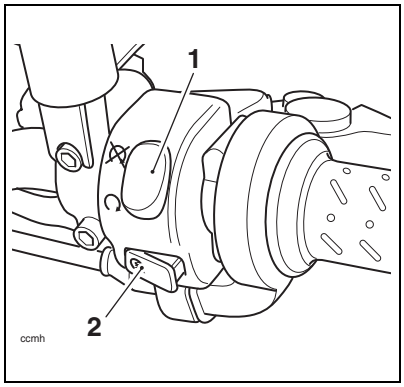
ブレーキレバーを調整するには、レバーを引き、調整ネジを右に回してハンドルまでの間隔を広げるか、左に回して間隔を縮めます。

⚠ 警告

モーターバイクが走行している時にレバーを調整しようとしないでください。バイクはコントロール不能に陥り、事故を引き起こしかねません。

レバーを調整した後は交通のない場所でモーターバイクを操縦し、新しいレバーの設定になじんでください。お持ちのバイクを他人に貸さないでください。借り手が、あなたの手になじんだレバー設定を変える可能性があり、バイクが制御不能になって事故を引き起こしかねません。

右ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ
2. スターターボタン

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチをRUNポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- **エンジンストップスイッチはエンジンを停止させますが、電装回路をすべてオフにするわけではないので、バッテリーが上がってエンジンの再始動を困難にする恐れがあります。通常は、エンジンンを止めるのに、イグニッションスイッチだけを使うべきです。**

⚠ 注意

電装コンポーネントを損ない、バッテリーが放電する恐れがあるので、エンジンが回転していない時は、イグニッションスイッチを ON ポジションのままにしないでください。

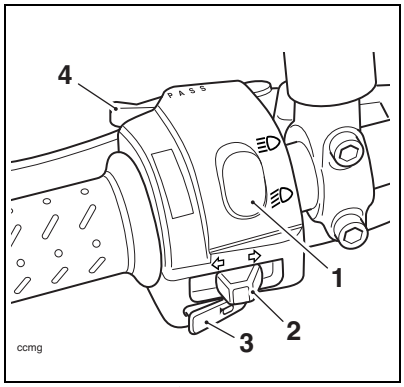
スターターボタン

スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- **クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。**

左ハンドルスイッチ



1. **ヘッドライトディップスイッチ**
2. **方向指示器スイッチ**
3. **ホーンボタン**
4. **パスボタン**

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームに入れると、ハイビーム表示灯が点きます。

注記：

- **このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ヘッドライト、テールライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションを ON ポジションにすると自動的に作動します。**

方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを左または右に押してから放すと、対応している方向指示器が点滅します。指示器の作動を停止させるには、スイッチを押してから放します。

ホーンボタン

イグニッションスイッチがONになっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

パスボタン

パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間は、ヘッドライトのスイッチは入ったままで、ボタンを放すと途端に消えます。

燃料の条件 / 燃料補給

燃料の等級

お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。必ずオクタン価 95 RONの無鉛燃料を使用してください。

⚠ 注意

オーストラリア、ニュージーランドを除く国の排気装置には、排気ガスの排出量を低減する触媒作用コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

⚠ 注意

国、州、地域によっては有鉛ガソリンの使用は違法とされています。有鉛ガソリンは、触媒作用コンバーター（装備されている場合）に損傷を与えることがあります。

⚠ 警告

燃料補給関連の危険を減らすため、以下の安全確保のための指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

携帯電話は使用しないでください。

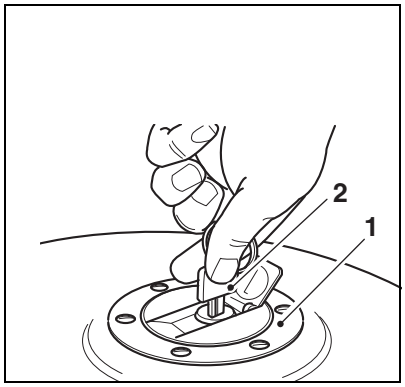
給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

燃料がフィラーネックに来るほどの満タンに、決してしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

フューエルタンクキャップ



1. フューエルタンクキャップ
2. キー

フューエルタンクキャップを開けるには、ロック自体を覆っているフラップを持ち上げます。キーをロックに差し込んで時計回りに回します。

キャップを閉じてロックするには、キーを差し込んだまま、ロックがカチッと音をたてて所定の場所におさまるまでキャップを押し下げます。キーを引き抜いてキーカバーを閉じます。

⚠ 注意

キーを差し込まずにキャップを閉じると、キャップ、タンク、ロック装置に損傷を与えることがあります。

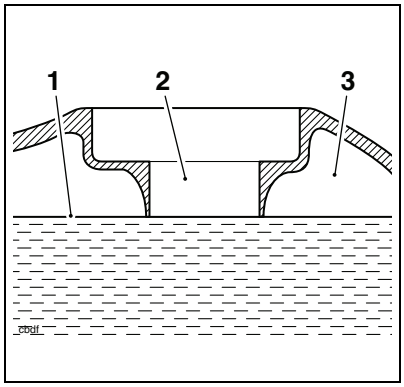
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

⚠ 注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィラーネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。



1. 燃料レベルの上限
2. フューエルフィラーネック
3. 空隙

⚠ 警告

タンクをいっぱいにすると、燃料の流出を招く恐れがあります。

燃料をこぼした場合は、きれいに拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他のモーターバイクの部分に燃料をこぼさないよう注意してください。

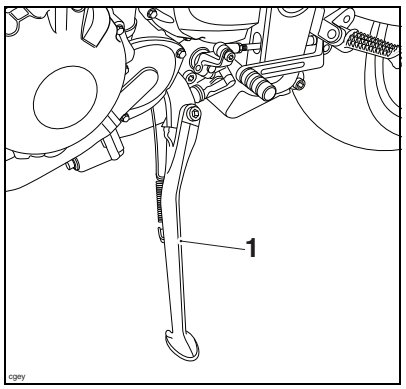
ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤ付近あるいはタイヤ上に燃料をこぼすと、タイヤの路面グリップ能力が落ちます。その結果、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を生じさせることがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。

⚠ 警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

注記：

- **サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。**

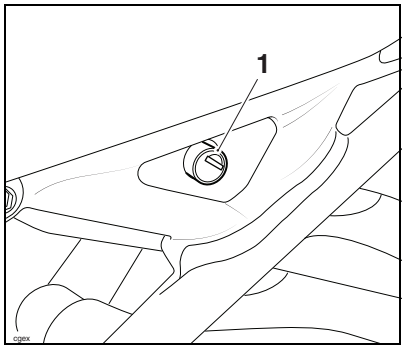
サイドスタンドを使用した時は必ずライディング前に、モーターバイクにまたがったらすぐスタンドが完全に戻していることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

ツールキットと取扱説明書

ツールキットとハンドブックがシート下にあります。

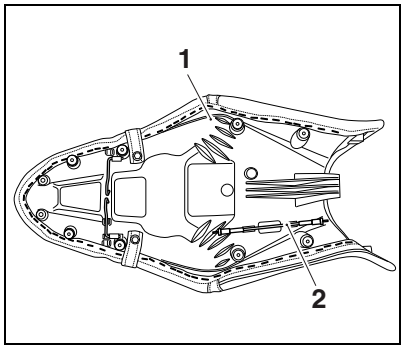
シートロック



1. シートロック

シートロックは、シート下のフレーム、モーターバイクの左側にあります。シートを取り外すには、イグニッションンキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計回しに回します。これでシートはロックから外れますので、後方にずらしてモーターバイクから完全に取り去ることができます。

シート下側にあるのは、燃料タンクサポートです。



1. シート
2. 燃料タンクサポート

シートケア

シートやシートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面に立てかけたりしないでください。

シートのクリーニングに関しては、*122* ページを参照してください。

⚠ 注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

シートを再装備するには、シートの突縁を燃料タンクの下にはめ込み、シート後部を押し下げてシートロックにはめ込みます。シートを完全に入れてロックすると、カチッという音がします。

⚠ 警告

走行中にシートが外れるのを防ぐために、取り付けた後で必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートがロックに適切に固定されていなければ、ロックから外れることがあります。シートがゆるんでいたり外れていると、バイクの制御が効かなくなり、事故を招く恐れがあります。

タイダウンフック

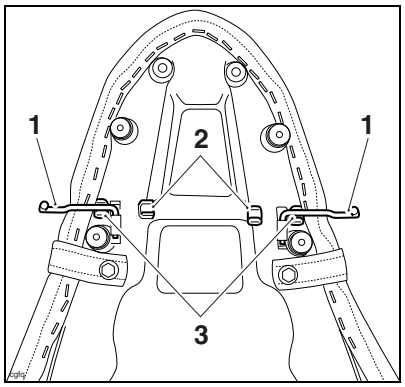
シート下側にあるのは、タイダウンフックです。

タイダウンフックで、最大 3.5 kg の荷物をロープを使ってシートに固定します。

タイダウンフック作業には、シートを外します（*50*ページ参照）。

インナークリップからフックを外し回し、アウタークリップに確実に固定します。

50 ページに記載されている要領でシートを取り付けます。



1. タイダウンフック
2. インナークリップ
3. アウタークリップ

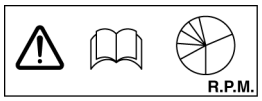
⚠ 警告

シートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が 3.5 kg を超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 3.5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

たとえ小さな物が適切にリアシートに積載されているだけであっても、モーターバイクの最高速度は 130 km/h まで落とす必要があります。

慣らし運転



「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こなう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- 最高速度の 4 分の 3 を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで：

- エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方：

- エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦闘」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

安全運転

日常の安全点検

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。

⚠ 警告

毎日、走行する前にこれらの点検を行なうことを怠ると、モーターバイクに多大な損傷を与えるか、重大な人身事故を招く結果になりかねません。

点検：

燃料： タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（*46*ページを参照）。

エンジンオイル： オイルゲージ上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充。エンジンやオイルクーラーからの漏れがないか（*77*ページを参照）。

ドライブチェーン： パニアを再装着します（*89*ページを参照）。

タイヤ / ホイール： 空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ/ホイールの損傷、パンクなど（*106* ページを参照）。

ナット、ボルト、固定部品： ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き： スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルにひっかかりがないか（*97*ページを参照）。

ブレーキ: ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（*93*ページを参照）。

ブレーキパッド： フロントブレーキパッドに 1.0 mm 以上の摩擦材、リアの場合は 1.5 mm 以上が残っていることが必要です（*93*ページ参照）。

ブレーキフルードレベル： ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（*96* ページを参照）。

フロントフォーク： 動きがスムーズか。フォークシールからの漏れはないか（*99* ページを参照）。

スロットル： 全舵取り角でスロットル遊び 2 - 3 ㎜。スロットルグリップの遊びが 2 – 3 ㎜あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか（*85*ページ参照）。

クラッチ：全舵取り角で、スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か（*88* ページ参照）。

クーラント： クーラントに漏れはないか。膨張タンク内のクーラントレベルを点検（エンジンが冷えている時に）（*81* ページを参照）。

電装品： すべてのライトとホーンが適切に機能するか（*41*ページを参照）。

エンジン停止：ストップスイッチでエンジンが停止するか（*56*ページを参照）。

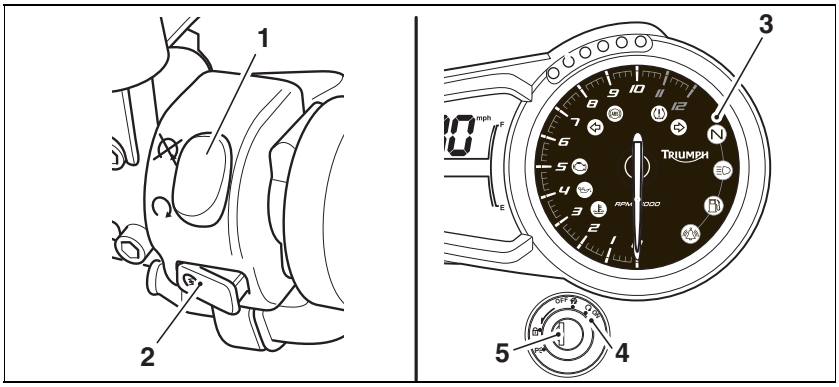
スタンド： バネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リターンスプリ ングが弱くないか、傷んでいないか（*49* ページを参照）。

モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止 56
エンジンの始動 56
発車 57
ギアチェンジ 58
ブレーキ操作 59
ABS （アンチロックブレーキシステム）装備モデルのみ 61
駐車 62
高速走行の際の注意 64
一般事項 64
ステアリング 64
荷物 64
ブレーキ 65
タイヤ 65
燃料 65
エンジンオイル 65
クーラント 65
電装品 65
その他 65

エンジンの停止



1. **エンジンストップスイッチ**
2. **スターターボタン**
3. **ニュートラル表示灯**
4. **ON ポジション**
5. **イグニッションスイッチ**

スロットルを完全に戻します。

ニュートラルを選びます。

したがって、イグニッションスイッチをオフにします。

ローギヤに入れます。

固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。

ステアリングをロックします。

⚠ 注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態でイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションにあることを確認してください。

確実にギアをニュートラルに入れてください。

クラッチレバーを切ります。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにすると、タコメーターの針がゼロから最高にサッと上がってから再びゼロに戻ります。計器警告ランプが点灯して直ぐに消えます（エンジンが始動するまで点灯している計器を除きます－ *38* ページ参照）。エンジンを始動させるのに、針がゼロに戻るまで待つ必要はありません。**
- **厳寒時は、コールドスタートができるようにスロットルを半開きにします。エンジンがかかったら、スロットルを戻してください。**

スロットルを全閉にした状態で、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。

ゆっくりとクラッチレバーを放します。

⚠ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

⚠ 注意

スターターを5秒以上継続して作動させないでください。 スターターモーターが過熱してバッテリーが上がってしまうことがあるからです。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで15 秒の間隔を置いてください。

エンジンを長い間アイドル状態にしておかないでください。過熱に至る恐れがあり、エンジン損傷の原因となることがあるからです。

⚠ 注意

油圧低下警告灯は、エンジンが動き始めたらまもなく消えるはずです。

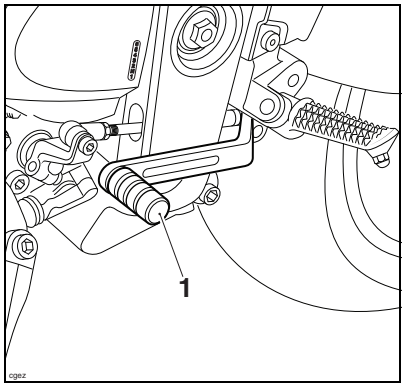
エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

- 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

発車

クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開き、クラッチレバーをゆっくりつなげます。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。

ギアチェンジ



1. ギアチェンジペダル

6 5 4 3 2 N 1

クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

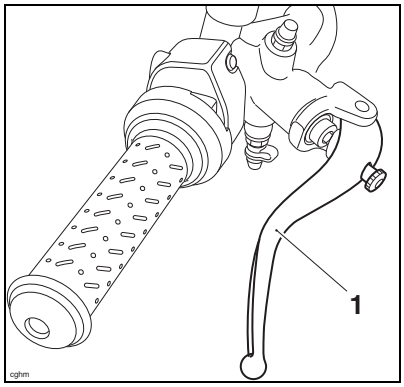
注記：

- **ギアチェンジの仕組みは「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを 1 回動かす毎に、ギアは上か下の方向に 1 段ずつ切り換わる仕組みです。**

⚠ 警告

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。エンジン速度を確実に落として、低速ギアへの切り換えを行なう必要があります。

ブレーキ操作



1. フロントブレーキレバー

⚠ 警告

ブレーキをかける時は、以下の事を守ってください：

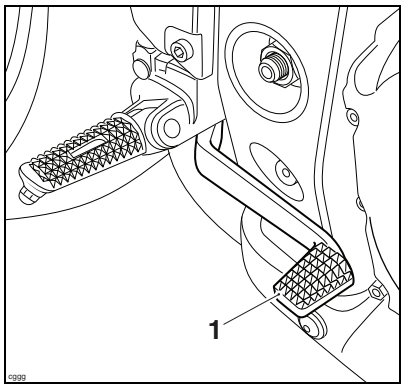
モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。



1. リアブレーキペダル

⚠ 警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません。

(ABS 警告を参照)

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

注意が散漫になるとバランスを崩して事故につながる恐れがあるため、(ABSの有無を問わず) ブレーキ操作、加速、コーナリング時に注意してください。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけるといずれかの車輪がロックされる恐れがあり、モーターバイクの制御性が低下して事故の原因となりかねません (ABS 警告参照)。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

⚠ 警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯するため、他の道路使用者は表示を誤解する恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

ABS （アンチロックブレーキシステム）装備モデルのみ

警告

ABS が車輪がロックされるのを防ぎます。従って、非常時や滑りやすい路面を走行している時こそ、ブレーキシステムの有効性は最大限に発揮されます。ABS のおかげで特定の状況下でも短距離でのブレーキ制動が可能になったとはいえ、そうした形で ABS に頼るのは良いことではありません。

常に法定制限速度内で走行してください。

注意散漫な状態で決して運転をせず、天候、道路のコンディション、交通状況により、減速するべきときは減速してください。

コーナリングの時は注意してください。コーナーリングの最中にブレーキをかけると、ABS でモーターバイクの重量と速力を抑制できません。そのため、バランスを崩して事故になる恐れがあります。

同機種のモーターバイクであっても、ABS を装備したモーターバイクの方が長めのブレーキ間隔が必要となる場合もあります。

ABS 警告ランプ

イグニッションをオンポジションにすると、ABS 警告灯が一旦点灯してから消灯するのが正常な状態です（*40* を参照）。ABS 警告灯が点灯したままの場合は、ABS 機能が以下の理由で無効になっています。

- ライダーが ABS を解除したため（*26* を参照）。
- ABS が故障しており点検が必要なため。

走行中に ABS 警告灯が点灯した場合は ABS の故障であり、点検が必要です。

注記：

- **ブレーキレバーやペダルの普段にない感触や振動によって、ABS が作動したことにライダーが気づくのが普通です。ABS は統合ブレーキシステムではないので、フロントとリアブレーキとを同時に制動できず、レバーかペダル、場合によっては両方から振動が身体に伝わります。**
- **突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。**

警告

ABS が機能していないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケーターランプが点灯したままの状態で、長く走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

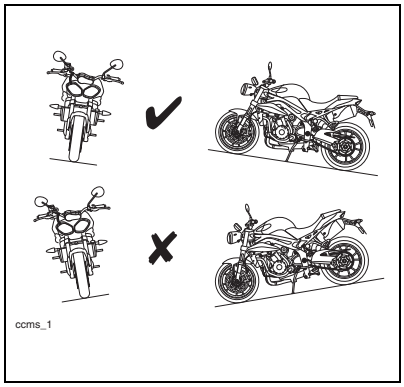
モーターバイクのセンタースタンドを立てた状態で、リアホイールを高速で30 秒以上回転させると ABS 警告ライトが点灯します。この反応は正常です。

イグニッションスイッチをオフにして、再びモーターバイクを始動すると、バイクが時速30 km/hに達するまで警告ライトが点灯しています。

⚠ 警告

ABSコンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用した場合、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABSが作動しない恐れがあり、そのため普通なら ABS が作動する状況下でも、バランスを崩して事故を引き起こす可能性があります。

駐車



ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。バイクが動くのを妨げるためにギアをファーストに入れます。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6° 以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- **夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチをP(PARK)にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。**

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がることがあるからです。

⚠ 警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

⚠ 警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモータバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。

熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

高速走行の際の注意

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

⚠ 警告

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通の速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には、タイヤのコンディションが良好であることが極めて大切です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて（タイヤが冷えた状態で）、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

燃料

高速走行すると燃料の消費量が増大するので、燃料は十分用意してください。

⚠ 注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

エンジンオイル

エンジンオイルのレベルが適正であることを確かめます。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

クーラント

クーラントの液面が膨張タンクの上限ラインにきているか調べてください。（液面レベルは、必ずエンジンが冷えている時に点検します。）

電装品

ヘッドライト、テール / ブレーキライト、方向指示灯、ホーン等、すべてが適切に作動することを確かめてください。

その他

締め具はすべて堅くしまっているか目で点検します。

このページは意図的に空白にしてあります

アクセサリーと積載条件

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にしてください。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量の 195 kg を絶対に超えないようにしてください。

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリーおよび積載荷物の重量を合計したものです。

⚠ 警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。また、自分が、照明具の可視度、ロードクリアランス、バンキング性能（すなわち傾斜角度）、コントロール走行、ホイールトラベル、フロントフォークの動き、あらゆる方向の視界、モーターバイク操縦に関わる他の要素に悪影響を与えていないことを確認してください。

⚠ 警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h 以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は130 km/h より低減することを忘れないでください。

アクセサリーと積載条件

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性があると伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

タンデムシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が 3.5 kg を超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 3.5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

たとえ小さな物が適切にリアシートに積載されているだけであっても、モーターバイクの最高速度は 130 km/h まで落とす必要があります。

このページは意図的に空白にしてあります

整備と調整

目次

定期整備 74
エンジンオイル 77
オイルレベルの点検 78
オイルとオイルフィルターの交換 79
使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分 80
オイルの仕様と等級 80
冷却装置 81
腐食防止剤 81
クーラントレベルの点検 82
クーラントレベルの調整 82
クーラントの交換 83
ラジエターとホース 83
燃料タンク 84
持ち上げる 84
下げます 85
スロットルコントロール 85
点検 86
クラッチ 88
点検 89
調整 89
ドライブチェーン 89
チェーンの注油 90
チェーンのたるみ点検 90
チェーンのたるみ調整 91
チェーンとスプロケットの磨耗点検 92
ブレーキ 93
ブレーキの磨耗点検 93
新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング 94
ブレーキパッドの磨耗補整 94
ディスクブレーキフルード 95
ブレーキフルードのレベル点検と調整 96

整備と調整

ブレーキライトスイッチ 97
ステアリング / ホイールベアリング 97
ステアリングの点検 97
ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検 98
ホイールベアリングの点検 98
フロントサスペンション 99
フロントフォークの点検 99
サスペンション設定値表－ Speed Triple 100
サスペンション設定値表－ Speed Triple R 100
フロントサスペンションの設定 101
伸側減衰の調整 102
圧側減衰の調整 103
リアサスペンションの調整 103
伸側減衰の調整 104
圧側減衰の調整 105
タイヤ 106
タイヤ空気圧 106
タイヤの磨耗 107
トレッドの推奨最小深度 107
タイヤの交換 108
バッテリー 111
バッテリーの取り外し 111
バッテリーの処分 112
バッテリーの整備 112
バッテリの放電 112
モータバイクから外してあるバッテリー、
あまり乗らないモータバイクのバッテリーの放電 112
バッテリーの充電 113
バッテリーの取り付け 113
ヒューズボックス 114
ヒューズの識別 114
ヘッドライト 116
ヘッドライト 116
ヘッドライトの電球交換 117

リアライト 119
リアライトの交換 119
方向指示灯 119
バルブの交換 119
ライセンスプレートライト 120
バルブの交換 120
洗車 121
洗車の準備 121
注意すべき部分 121
洗車後 122
シートケア 122
塗装されていないアルミニウム部品 122
排気装置の清掃 123
洗浄 123
乾燥 123
保護 123

整備と調整

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

⚠ 警告

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規 Triumph ディーラーで実施してください。

⚠ 警告

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動のモーターバイクは、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規 Triumph ディーラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

整備内容		オドメータ上のキロ数または経過年数のいずれか先に達した方				
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
エンジンオイルクーラー － 漏れ点検	–	•	•	•	•	•
エンジンオイル－交換	–	•	•	•	•	•
エンジンオイルフィルター－交換	–	•	•	•	•	•
バルブクリアランス－点検	–			•		•
エアクリーナー－交換	–			•		•
オートスキャン – Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを行います	–	•	•	•	•	•
ABS ECM －内蔵 DTC の点検		•	•	•	•	•
スパークプラグ－点検	–		•		•	
スパークプラグ－交換	–			•		•
スロットルボディー－バランス調整	–		•	•	•	•
スロットルケーブル－点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
冷却装置－漏れ点検	日	•	•	•	•	•
クーラントレベル－点検 / 調整	日	•	•		•	
クーラント－交換	–			•		•
燃料系統－漏れ点検	日	•	•	•	•	•
ライト、計器類＆電装系統－点検	日	•	•	•	•	•
ステアリング－作動状態点検	日	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－点検 / 調整	–		•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－潤滑	–			•		•
フォーク－漏れ / 作動状態点検	日	•	•	•	•	•
フォークオイル－交換	–					•
ブレーキフルードレベル－点検	日	•	•	•	•	•

整備と調整

整備内容		オドメータ上のキロ数または経過年数のいずれか先に達した方				
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
ブレーキフルードー交換	–			•		•
ブレーキパッドー磨耗点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキマスターシリンダーーオイル漏れ点検	–	•	•	•	•	•
ブレーキキャリパーー漏れとピストンの焼付き点検	–	•	•	•	•	•
リアサスペンションリンケージ – 点検 / 注油	–			•		•
ドライブチェーンー潤滑注油	300 キロごと					
ドライブチェーンー磨耗点検	800 キロごと					
ドライブチェーンのゆるみー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
ドライブラビングストリップー点検	–		•	•	•	•
締め具類ー締まり具合を目視点検	日	•	•	•	•	•
ホイールー損傷がないか点検	日	•	•	•	•	•
ホイールベアリング – 摩耗 / 作動状態の点検	–			•		•
リアホイールのニードルローラーベアリングー潤滑	–	•	•	•	•	•
タイヤの摩耗 / 損傷ー点検	日	•	•	•	•	•
タイヤ空気圧ー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
クラッチケーブルー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
セカンダリーエアインジェクションシステムー点検	–			•		•
スタンドー作動状態点検	日	•	•	•	•	•
排気クランプボルトー点検 / 調整	–	•	•	•	•	•
燃料と蒸発ロスホースー交換＊	–					•

＊特定市場向けモデルにのみ装着されている蒸発システム

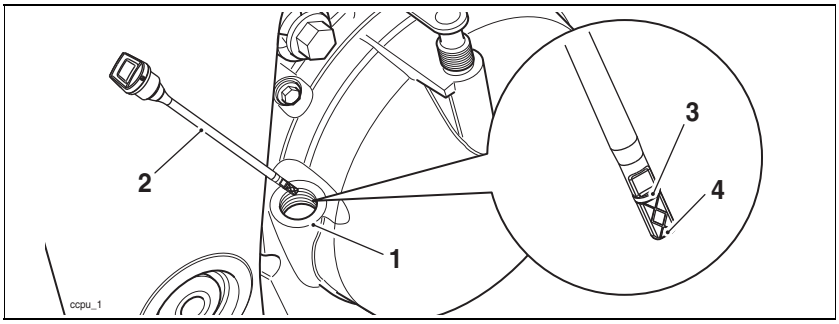
エンジンオイル

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

⚠ 警告

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンまたはトランスミッションが焼付きを起こすと、突然制御不能に陥って事故を起こしかねません。

オイルレベルの点検



1. フィラー
2. フィラープラグ / ディプスティック
3. 上限マーク
4. 下限マーク

注記：

- **エンジン内のオイルレベルが正確に表示されるのは、エンジンオイルが通常の運転温度であり、モーターバイクを（サイドスタンドではなく）センタースタンドで駐車し、フィラープラグ / ディップスティックが完全に入っている場合に限ります。**

⚠ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

⚠ 注意

オイルが不足しているのにエンジンを回転させると、エンジンを損傷させます。油圧低下インジケーターが点灯したままになったら、即座にエンジンを止め、原因を調べてください。

エンジンを始動し、約5分間空転させます。

エンジンを止めてから、オイルが落ち着くまで 3 分間待ってください。

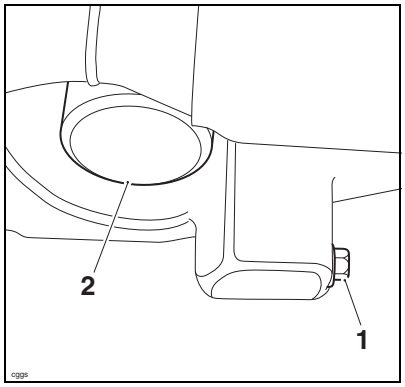
モーターバイクをセンタースタンドで駐車し、フィラープラグ / オイルゲージを取り外してブレードをきれいに拭き、完全にねじ込みます。

フィラープラグ/オイルゲージを取り外します。

オイルレベルは、フィラープラグ / オイルゲージの線で示されます。満タンの場合、オイルレベルはオイルゲージの上限マークと同じ高さになります。

オイルレベルが下限マークを下回った場合、適正レベルに達するまで少しずつオイルを補充していきます。適正レベルに達したら、フィラープラグ / ディプスティックを再びはめます。

オイルとオイルフィルターの交換



1. オイルドレンプラグ
2. オイルフィルター

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。その上、使用済みエンジンオイルには発ガン性の有害汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用し、使用済みオイルが皮膚に触れないようにしてください。

エンジンを十分に暖めてから止め、モーターバイクを平らな地面に真っ直ぐに立てます。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

オイルドレンプラグを取り外します。

⚠ 警告

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。オイルフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。

新しいオイルフィルターのシーリングリングに新しいエンジンオイルを薄く塗りつけます。オイルフィルターを取り付けて **10 Nm** で締め付けます。

新しいワッシャを入れ、オイルドレンプラグを取り付け、**25 Nm** で締め付けます。

API SH （またはそれ以上）と JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）をエンジンに補充します。国によっては、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されています。

エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

⚠ 注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

⚠ 注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているのにこのランプが消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

エンジンが始動するとまもなく油圧低下警告灯が消えることを確認します。

イグニッションを切り、前述の要領でオイルレベルを点検し、オイルゲージ上の上限と下限レベルを示す線の間に液面がくるようにオイルを補充します。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

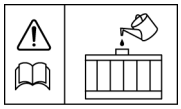
オイルの仕様と等級

Triumph の高性能燃料噴射エンジンは、API SH （またはそれ以上）と JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 15W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）を使用するように設計されています。国によっては、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されています。

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

冷却装置



効率的にエンジンを冷やすには、毎日モーターバイクに乗る前にクーラントレベルを点検し、液面が低くなっていたら補充してください。

注記：

- **年間を通じて、ハイブリッド有機酸テクノロジー（ハイブリッドOATまたはHOAT）クーラントを冷却装置に注入した状態で、モーターバイクを工場より出荷しています。色はグリーンであり、50%濃度のエチレングリコール基の不凍液を含有し、凝固点は-35°Cです。**

腐食防止剤

冷却装置を腐食から護るために、クーラントに腐食防止剤を入れることが極めて重要です。

腐食防止剤の入っているクーラントを使わなければ、冷却装置のウォータージャケットやラジエターに錆びや湯垢がたまります。これはクーラントの通路を塞いで、冷却装置の能率を著しく低下させます。

⚠ 警告

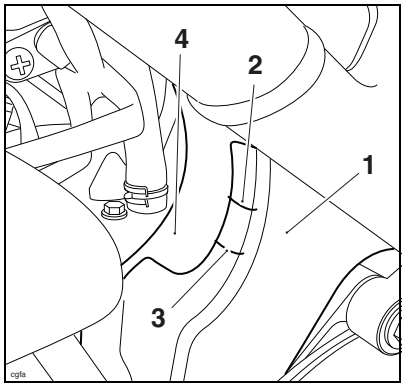
アルミニウムエンジンとラジエターに適した、腐食防止剤と不凍剤入りのHD4Xハイブリッド OATクーラントを使ってください。必ず、メーカーの指示に従って不凍剤を使ってください。

不凍剤と腐食防止剤が混ざったクーラントには、人体に有害な有毒物質が含まれています。不凍剤やモーターバイクのクーラントは、絶対に飲み込まないでください。

注記：

- **Triumphが供給するHD4Xハイブリッド OATクーラントは事前に混合してあるので、冷却装置への補充や注ぎ足し時に希釈する必要はありません。**

クーラントレベルの点検



1. 膨張タンクカバー
2. MAX（上限）マーク
3. MIN （下限）マーク
4. 膨張タンク

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

膨張タンクのクーラントレベルは、カバーを一切外さずにモーターバイクの左側で点検します。

膨張タンク内のクーラントレベルを調べます。クーラントの液面は、膨張タンクカバーに刻印された、MAX と MIN の間でなければなりません。クーラントレベルが下限マークより下にある場合は、調整する必要があります。

クーラントレベルの調整

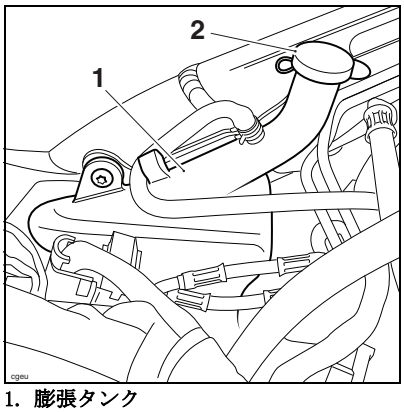
⚠ 警告

エンジンが高温の時、ラジエター圧力キャップを取り外さないでください。エンジンが暖まっていると、ラジエター内のクーラントの温度が高く、加圧状態になっています。高温、高圧のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。

エンジンが冷めるのを待ちます。

膨張タンクの作業をするには、燃料タンクを持ち上げて支えます(*84*ページを参照)。

膨張タンクからキャップを外し、液面レベルが膨張タンクカバーのMAXマークに達するまで、補給口に混合冷却液を補充します。



1. 膨張タンク
2. タンクキャップ

キャップを再び取り付けます。

燃料タンクを下げて固定します（*85* ページを参照)。

注記：

- **クーラントの過熱が原因でクーラントレベルを点検するのであれば、ラジエター内の液面レベルも点検し、必要があれば補充してください。**
- **緊急で止むをえない場合には、冷却装置に希釈水を補充しても構いません。ただし、なるべく早めにクーラントを抜き取り、HD4X ハイブリッド OAT クーラントを補充してください。**

⚠ 注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエーターに酸化膜が蓄積して、冷却装置の効率を著しく低下させます。冷却装置の効率が低下すると、エンジンを過熱させて多大な損傷を与えることになりかねません。

クーラントの交換

定期整備表の指示に従い、正規 Triumph ディーラーに依頼してクーラントに交換してもらってください。

ラジエターとホース

定期整備表の指示に従って、ラジエターホースに亀裂や劣化がないか、ホースクリップが硬くなっていないか点検してください。欠陥のあるものは、正規 Triumph ディーラーに付け替えてもらってください。

ラジエーターフィンに昆虫や枯葉、泥などが詰まっていないか点検してください。低圧の放水で詰まっているゴミを洗い流してください。

⚠ 警告

ファンは、エンジンが回転している間は、自動的に作動します。常に手や衣服をファンから遠ざけておいてください。回転中のファンに触れると負傷する可能性があるからです。

⚠ 注意

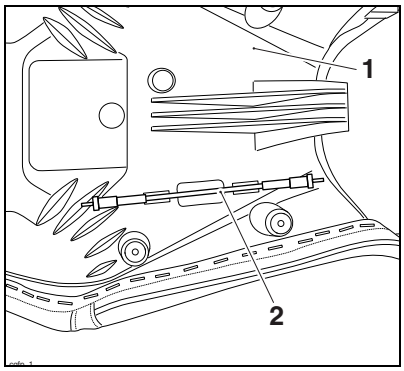
洗車場にある高圧ウォータースプレーや家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンに損傷を与えて漏れやラジエターの能力低下を引き起こす可能性があります。

承認されていないアクセサリーをラジエターの前や冷却ファンの後ろに装備して、ラジエターを通る空気の流れを遮断したり、そらせたりしないでください。ラジエターの空気の流れを妨げると、過熱してエンジンに損傷を与える恐れがあります。

燃料タンク

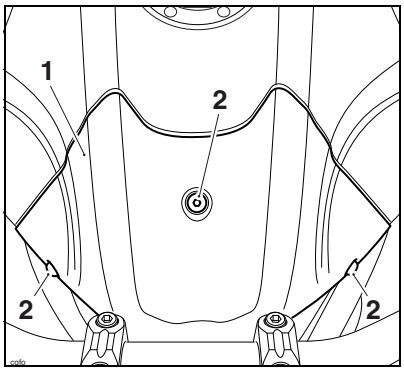
持ち上げる

シート（*50* ページ参照）を外し、シートベースにある燃料タンクの支えを外します。*50*ページに記載されている要領でシートを保管します。



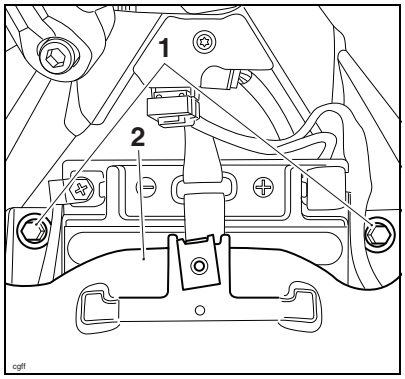
1. シート
2. 燃料タンク支え

3 個の固定具を緩め、燃料タンクからフロントパネルを外します。



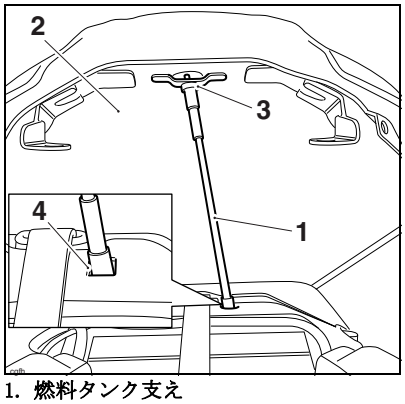
1. フロントパネル
2. 固定具

燃料タンク用のフロント固定具を外します。



1. 固定具
2. 燃料タンク

燃料タンクを前方上に向けて回します。燃料タンクを持ち上げた状態を保ちながら、エアボックスと燃料タンクの固定ポイントに、燃料タンク支えをセットします。



1. 燃料タンク支え
2. 燃料タンク
3. 固定ポイント、燃料タンク側
4. 固定ポイント、エアボックス側

下げます

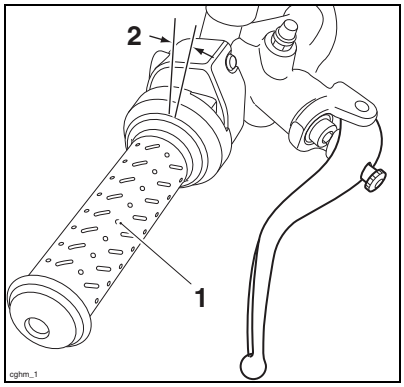
燃料タンクを保持しながら、燃料タンク支えを外し、燃料タンクを下げます。フロント固定具を再びはめて **4 Nm** で締め付けます。

フロントパネルを再び取り付け、固定具を **2 Nm** で締め付けます。

燃料タンク支えをシートベースの所定の位置に固定します。

シートを再装備します（*50*ページ参照）。

スロットルコントロール



1. スロットルグリップ
2. 規定値、2 – 3 mm

⚠ 警告

スロットルグリップは、スロットルボディー内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行なってください。

⚠ 警告

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

点検

⚠ 警告

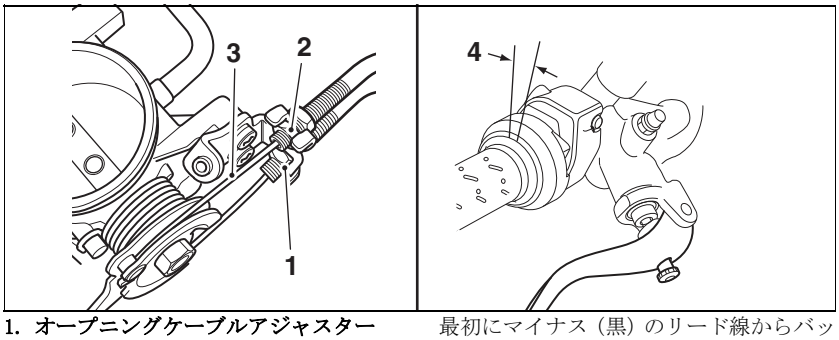
調整や配線が不適当になされていたり、滑らかに動かないあるいは損傷しているスロットルケーブルを装着したモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰することがあります。

不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph ディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。

全舵取り角でスロットルグリップを回した時に、スロットルグリップに 2 - 3 mm の遊びがあるかを調べてください。

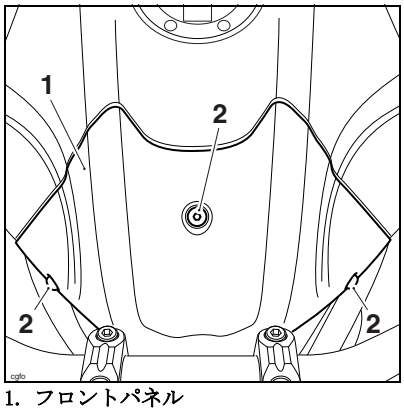
遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。しかしながら、非常時の場合は、以下の手順でスロットルを調整できます：



1. **オープニングケーブルアジャスター**
2. **クロージングケーブルアジャスター**
3. **クロージングケーブル－遊び測定ポイント**
4. **オープニングケーブル－遊び測定ポイント**

シートを取り外します(*50*ページを参照)。

3 個の固定具を緩め、燃料タンクからフロントパネルを外します。



1. **フロントパネル**
2. **固定具**

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

燃料タンクを取り外します。

「オープニング」ケーブルアジャスターのロックナットをゆるめます。

ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、それぞれの方向に等分に調節されるよう回します。

ケーブルのスロットルボディー側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、ツイストグリップに 2 - 3 mm の遊びをもたせるために回します。　ロックナットを **2.5 Nm** で締め付けます。

ケーブルのツイストグリップ側に近いアジャスターを使い、2 - 3 mm の遊びをもたせるのに必要な微調整を行なってください。ロックナットを締め付けます。

スロットルを完全に絞った状態で、スロットルボディーに取り付けられているスロットルカムのところで、「クロージング」ケーブルに 2 - 3 mm の遊びがあることを確かめます。「オープニング」ケーブルと同じ要領で、スロットルボディ端に 2 - 3 mm の遊びをもたせるように調整してください。

⚠ 警告

ロックナットが緩んでいるとスロットルが動かなくなる恐れがあるので、ケーブルのアジャスターロックナットを確実に締め付けてください。

スロットルの調整が不適切で、ひっかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

燃料タンクを再装備します。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

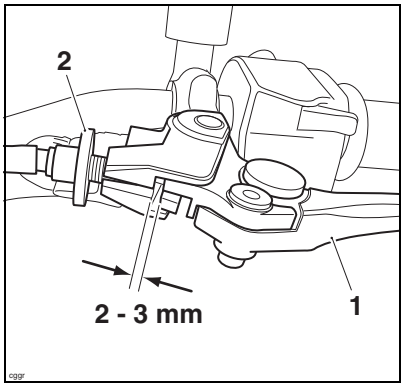
フロントパネルを燃料タンクに再び取り付け、固定具を **2 Nm** で締め付けます。

シートを再装備します（*50*ページ参照）。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。

走行を再開する前に、最寄りの正規Triumphディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

クラッチ



1. クラッチレバー
2. アジャスター
3. 規定値、2 – 3 mm

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大き過ぎると、クラッチが完全に切れない恐れがあります。そうなると、ギヤチェンジやニュートラルに入れる際に困難が生じることがあります。これは、エンストやモーターバイクを制御困難な状態に陥らせる原因になりかねません。逆に、クラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチが完全にかみ合わずに、スリップを招く恐れがあります。これは、クラッチの性能を低下させ、磨耗を早める原因になることがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

点検

レバーの遊びが 2 - 3 mm あるか点検してください。

遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

調整

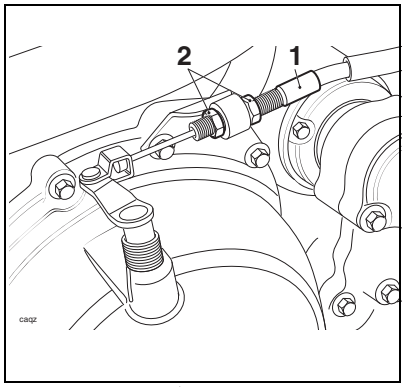
全舵取り角でクラッチレバーの遊びが適正か、クラッチレバーのアジャスターを回します。

レバーアジャスターで適切な調整ができない場合は、ケーブルの下端にあるケーブルアジャスターを使ってください。

アジャスターロックナットを緩めます。

クラッチレバーのところに 2 - 3 mm の遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。

ロックナットを締め付けます。



1. クラッチケーブル
2. アジャスター

ドライブチェーン

ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。塩分や砂が多いといった極端にコンディションの悪い道路の場合、点検、調整、注油を通常より頻繁に行なってください。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも)調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。磨耗や損傷したチェーンの場合、速やかに正規 Triumph ディーラーで供給している純正 Triumph パーツに替えてください。

⚠ 警告

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンスプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンスプロケットに絡まったチェーンでケガをしたり、モーターバイクのバランスを崩して事故になる恐れがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

チェーンの注油

チェーンは 300 km 走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

ローラー両側に潤滑油を注油し、8 時間が経つまではモーターバイクに乗らないでください（一晩置くのが理想的）。こうすると、チェーン O リング、その他にオイルがゆきわたります。

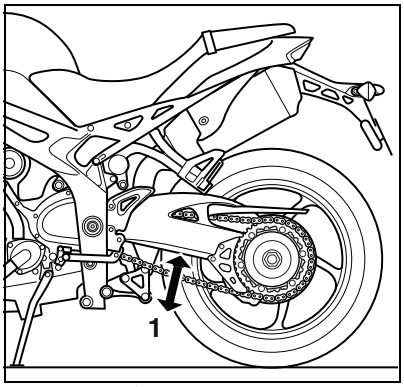
乗る前に、余分なオイルを拭き取ります。

チェーンの汚れが特にひどい時は、まず汚れを落とし、それから前述の要領で注油します。

⚠ 注意

チェーン系コンポーネントを損傷するので、チェーンの汚れ落としに加圧洗浄機を使わないでください。

チェーンのたるみ点検



1. 最大ムーブメントポジション

⚠ 警告

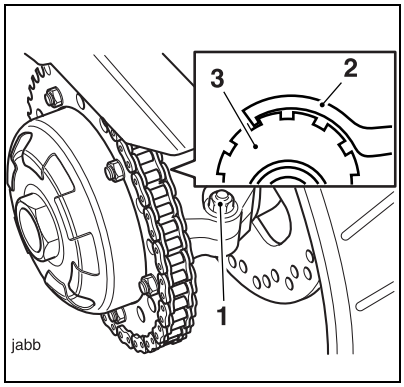
作業を開始する前に、モーターバイクが安定しており、適切に支えられていることを確かめてください。作業者をケガから守り、モーターバイクが損傷するのを防ぎます。

平らな場所にモーターバイクを置き、積載せずに真っ直ぐ立てます。

モーターバイクを押してリアホイールを回転させ、チェーンが最もきつくなるポイントを見つけ、2 枚のスプロケットの中間でたるみを測定します。

ドライブチェーンの上下の動き幅は、21 - 30 mm の範囲内でなければなりません。

チェーンのたるみ調整



1. アジャスタクランプボルト
2. C型スパナ
3. エキセントリックアジャスター

アジャスタクランプボルトをゆるめます。

ツールキットに入っているCスパナを使って、チェーンが適切に調整されるまで、リアハブ/エキセントリックアジャスタを回します（ゆるめるには時計回り、締めるには反時計回り）。

クランプボルトを 55 Nm で締め付けます。

チェーンの調整点検を繰り返します。必要な場合は再調整します。

⚠ 警告

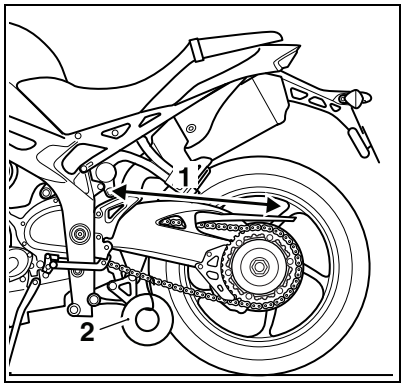
リアハブ/エキセントリックアジャスタクランプボルトが緩んだ状態でモーターバイクを運転すると、安定性と操縦性が損なわれる可能性があります。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

リアブレーキの効き具合を調べてください。必要があれば直します。

⚠ 警告

ブレーキに欠陥のある状態でモーターバイクを運転するのは危険であり、走行を再開する前に最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検修理してもらってください。点検修理をしなかった場合、ブレーキ制動が甘くなり、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

チェーンとスプロケットの磨耗点検



1. 20 環分を測定
2. おもり

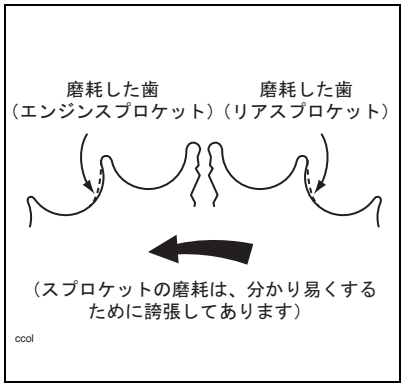
チェーンに 10 - 20 kg のおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。

1 番目のピンの中心から 21 番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。

長さが使用限度である 320 mm を超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。

リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。

スプロケットの歯が不揃いになっていないか、過度に磨耗していないか、歯が欠けていないかといったことも点検してください。



異常があった場合、最寄りの正規 Triumph ディーラーにドライブチェーンやスプロケットを交換してもらってください。

⚠ 警告

認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。

Triumphパーツカタログに載っている純正 Triumph 供給チェーンを使ってください。

チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規Triumphディーラーに実施してもらってください。

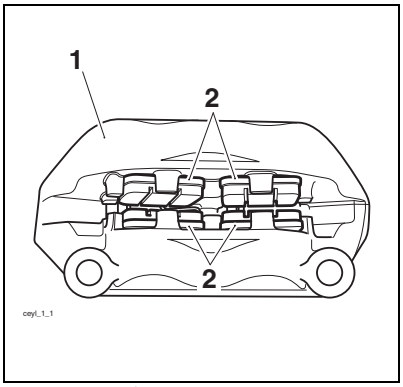
⚠ 注意

スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。

チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検



1. フロントブレーキキャリパー、図は Speed Triple
2. ブレーキパッド

ブレーキパッドは、定期整備表の指示に従って点検し、修理サービスの限界又は最低限度を超える薄さまで磨耗している時は、交換しなければなりません。

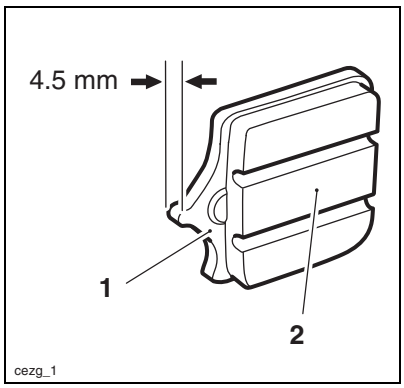
パッドのライニング厚がフロントの場合は 1.0 mm、リアの場合は 1.5 mm 以下になっていたら、そのホイールの全部のパッドを交換します。

⚠ 警告

独自ブランドとして販売されている新品のブレーキパッドを取り付ける場合は、ブレーキパッドのキャリアプレートの厚さが 4.5 mm 以上であることを確認してください。

キャリアプレートの厚さが4.5 mm 未満のブレーキパッドを取り付けると、ブレーキパッドが摩耗によって薄くなることが原因でブレーキが故障する場合があります。

Triumphが本モデル用にご提供するブレーキパッドは、キャリアプレートの厚さが4.5 mm以上あります。必ず、Triumphディーラーがご提供する交換用のブレーキパッドをそのディーラーで取り付けてもらうようにしてください。



1. キャリアプレート、図は Speed Triple
2. ブレーキパッド

新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング

交換用ブレーキディスクとブレーキパッドをモーターバイクに取り付けた後、動作の最適化とディスクとパッドの長寿命のため、一定期間にわたって使い慣らしを行うことを奨励します。新ブレーキパッドとディスクで奨励する、慣らし距離は300 km です。

新ブレーキディスクとパッドを取り付けたら、慣らし運転中は急ブレーキを避け、慎重に運転し、車間距離を空けてください。

⚠ 警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合、同じホイールにキャリパーが 2 つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッドを全部交換してください。

パッドを個々に交換すると、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。

ブレーキパッドを交換した直後は、新しいパッドが「よく馴れる」まで、慎重に運転してください。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとブレーキパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの動きに影響を及ぼしません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

⚠ 警告

ブレーキをかけた時に、ブレーキレバーやペダルがソフトに感じられたり、あるいはレバー/ペダルの遊びが大きすぎる場合、ブレーキパイプに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある恐れがあります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。必ず、走行前に最寄りの正規Triumphディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。仕様の章で推奨されているように、DOT 4のブレーキフルードだけを使ってください。ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合も、ブレーキフルードを交換する必要があります。

⚠ 警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていなかったり、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

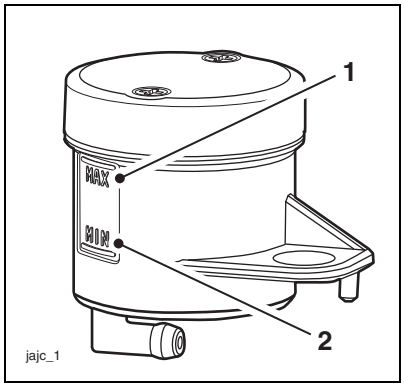
ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。

故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

ブレーキフルードのレベル点検と調整



1. フロントブレーキフルードリザーバ、MAX 上限ライン
2. MIN 下限ライン

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、MAX と MIN の間にあることが必要です（リザーバは水平の状態であること）。

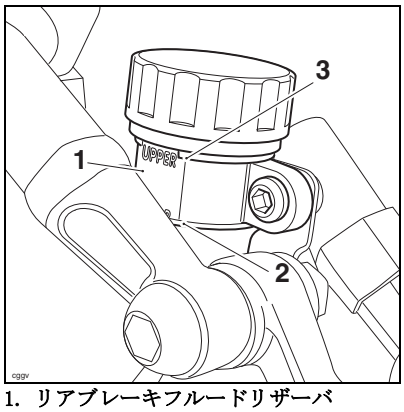
リザーバカバーを取り外します。

密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールが正しく取り付けられていることを確認して、リザーバカバーを再度取り付けます。キャップの止めネジを 1 Nm で締め付けます。

⚠ 警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく下がっていた場合は、走行前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談し、アドバイスを受けてください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。



1. リアブレーキフルードリザーバ
2. 上限ライン
3. 下限ライン

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。イグニッションを ON ポジションにした状態でブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏んだりしてもブレーキライトが点灯しない場合、正規 Triumph ディーラーに不具合の点検と修理を依頼してください。

⚠ 警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

ステアリング / ホイールベアリング

⚠ 警告

点検中にモーターバイクが倒れて負傷することのないように、モーターバイクがしっかりと適切な支えの上に固定されていることを確認してください。それぞれのホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になり、支えから落下して怪我のもととなりかねません。

支えのブロックが、サンプに損傷を与えない場所に置かれていることを確かめてください。

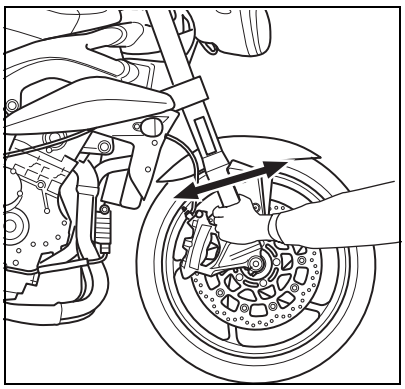
ステアリングの点検

定期整備表に従って、ヘッドストック（ステアリング）ベアリングの状態の点検と潤滑油の注油を行なってください。

注記：

- **ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。**

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検



モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、運転する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検と、あれば故障の修理を依頼してください。

⚠ 警告

調整が不適切だったり、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクのコントロールが失われ、事故を引き起こしかねません。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの横に立って、フロントホイールの上部を静かに左右にゆすります。

走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumphディーラーに依頼してください。

ジャッキの位置を変え、リアホイールも同じ手順で点検します。

⚠ 警告

フロント又はリアホイールベアリングに磨耗や損傷のある状態で運転することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

それぞれのフォークに損傷のしるしがないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。
- 動きが滑らかでなく、過度な硬さが感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

注記：

- **サスペンションの動きは、調整の設定に左右されます。**

⚠ 警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターバイクを運転することは危険であり、コントロールが失われて事故につながりかねません。

⚠ 警告

サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

サスペンション設定値表－ Speed Triple

積載状態		フロント			リア	
		スプリングプリロード 1	伸側減衰 2	圧側減衰 2	伸側減衰 2	圧側減衰 2
単独走行	標準	7.00	1.50	1.50	1.25	1.00
	軟らかめ	7.00	1.50	1.50	2.50	2.50
	硬め	7.00	0.75	0.75	1.00	1.00
ライダーと同乗者		7.00	0.75	0.75	0.75	0.75
1 アジャスターを反時計回りに回しきった位置から時計回りに回した数。 2 アジャスターを時計回りに回しきった位置から反時計回りに回した数。						

サスペンション設定値表－ Speed Triple R

積載状態		フロント			リア	
		スプリングプリロード 1	伸側減衰 2	圧側減衰 2	伸側減衰 2	圧側減衰 2
単独走行	サーキット	7.00	8	8	6	6
	標準 - スポーツ	7.00	10	15	10	17
	コンフォート	7.00	10	17	11	20
ライダーと同乗者		7.00	10	12	8	15
1 アジャスターを反時計回りに回しきった位置から時計回りに回した数。 2 時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がした数。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとする。						

注記：

- **表は目安に過ぎません。ライダーの体重や好みにより、設定条件は変わります。サスペンションの調整については、次ページ以降を参照してください。**

サスペンションを標準設定にすれば、通常の単独走行の時に快適な乗り心地と優れたハンドリング特性をもたらします。本表に記載されているのは、フロントとリアサスペンションの目安となる設定値です。

⚠ 警告

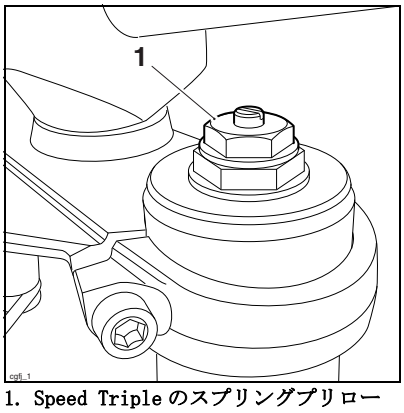
フロントとリアサスペンションの間に適当なバランスが保たれていることを確認してください。サスペンションの不均衡は、操縦特性に著しい変化をもたらす可能性があり、バイクを制御しきれなくなって事故を起こす場合があります。詳細については、上表を参照するか、最寄りのTriumphディーラーにお問い合わせください。

⚠ 警告

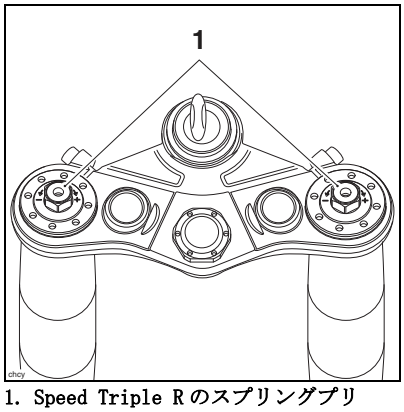
アジャスターとフォークの設定値を同一にしてください。左右の設定値が異なると、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、バランスを崩して事故を引き起こす恐れがあります。

フロントサスペンションの設定

スプリングプリロードの調整



1. Speed Triple のスプリングプリロードアジャスター



1. Speed Triple R のスプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードアジャスターは、各フォークの最上部にあります。

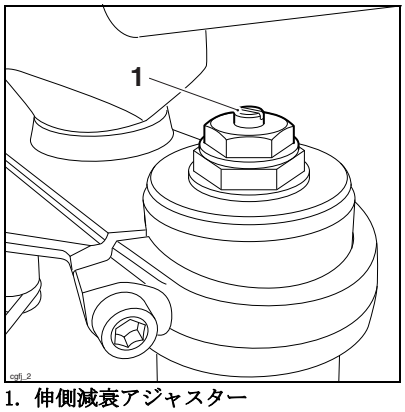
スプリングプリロードの調整をする場合は、アジャスターを時計回りに回すとプリロードが増加し、反時計回りに回すと減少

します。反時計回りに回しきった位置から時計回りに回した数を数えて、必ず両フォークとも同じ設定にします。

- **Speed TripleとSpeed Triple Rは、反時計回りに回しきった位置から時計回りに7回転させた位置にスプリングプリロードを設定した状態で工場から出荷されます。**

伸側減衰の調整

Speed Triple



1. 伸側減衰アジャスター

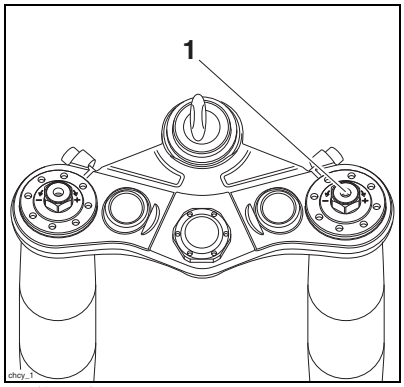
伸側減衰アジャスターは、各フォークの最上部にあります。

伸側減衰力の調整をする場合は、スロット付きアジャスターを時計回りに回すと伸側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回した数を数えて、必ず両フォークとも同じ設定にします。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から反時計回りに1.5回転させた位置に伸側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

Speed Triple R



1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、右側フォークの最上部にあります。

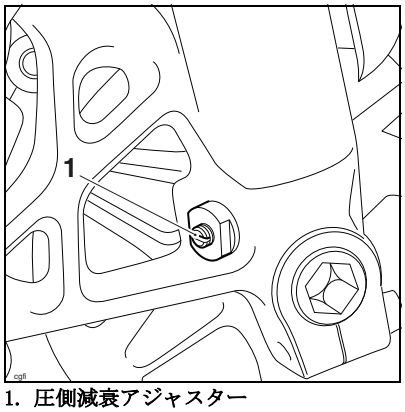
伸側減衰力の調整をする場合は、3 mm の六角棒スパナでアジャスターを時計回りに回すと伸側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置からカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 10 回カチッと音をたてた位置に伸側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

圧側減衰の調整

Speed Triple



1. 圧側減衰アジャスター

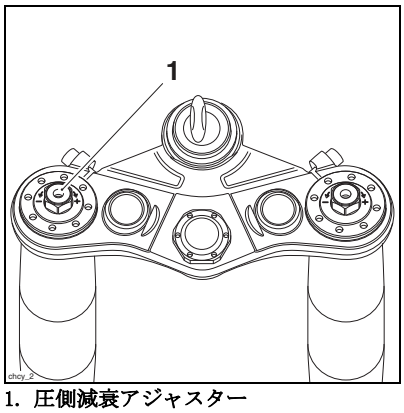
圧側減衰アジャスターは、両方のフォークの下端近くに、ホイールスピンドルに隣接して取り付けられています。

圧側減衰力の調整をする場合は、スロット付きアジャスターを時計回りに回すと圧側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回した数を数えて、必ず両フォークとも同じ設定にします。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から反時計回りに 1.5 回転させた位置に圧側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

Speed Triple R



1. 圧側減衰アジャスター

圧側減衰アジャスターは、左側フォークの最上部にあります。

圧側減衰力の調整をする場合は、3 mm の六角棒スパナでアジャスターを時計回りに回すと圧側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置からカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

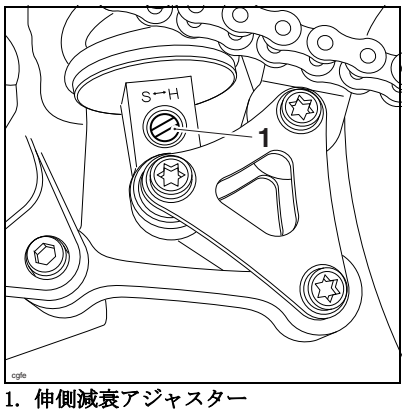
- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 15 回カチッと音をたてた位置に圧側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

リアサスペンションの調整

リアサスペンションユニットは、伸側減衰と圧側減衰の両方の調整が可能です。

伸側減衰の調整

Speed Triple



1. 伸側減衰アジャスター

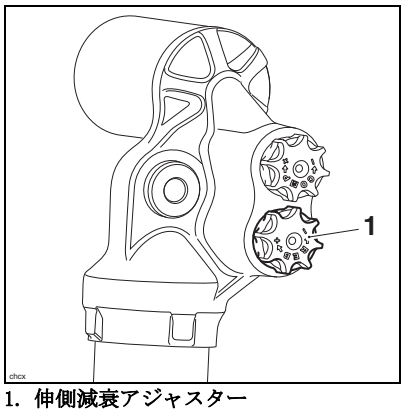
伸側減衰アジャスターは、モーターサイクルの左側、リアサスペンションユニットの最下端にあります。

伸側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計回りに回すと伸側減衰が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回した数を必ず数えてください。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から反時計回りに 1.25 回転させた位置に伸側減衰アジャスターを設定した状態で工場から出荷されます。**

Speed Triple R



1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターの調整は、モーターサイクルの左側から作業できます。アジャスターは黒色で、リアサスペンションリザーバの近くに取り付けられています。

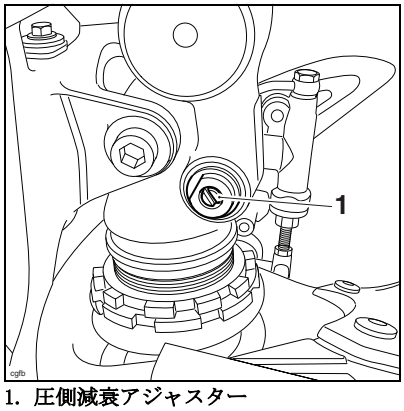
伸側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計回りに回すと伸側減衰が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 10 回カチッと音をたてた位置に伸側減衰アジャスターを設定した状態で工場から出荷されます。**

圧側減衰の調整

Speed Triple



1. 圧側減衰アジャスター

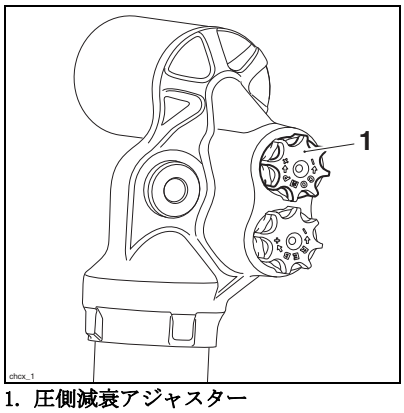
圧側減衰アジャスターは、リアサスペンションユニットリザーバの下方にあります。

圧側減衰の設定を調整をする場合は、スロット付きアジャスターを時計回りに回すと圧側減衰が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回した数を必ず数えてください。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から反時計回りに 1.0 回転させた位置に圧側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

Speed Triple R



1. 圧側減衰アジャスター

圧側減衰アジャスターの調整は、モーターサイクルの左側から作業できます。アジャスターは金色で、リアサスペンションリザーバの近くに取り付けられています。

伸側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計回りに回すと伸側減衰が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

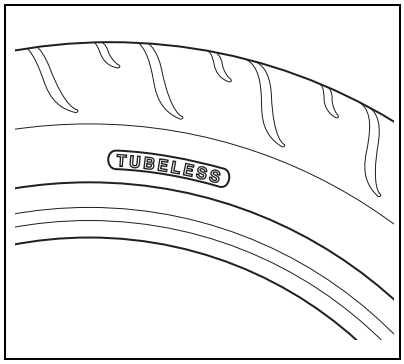
- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 17 回カチッと音をたてた位置に伸側減衰アジャスターを設定した状態で工場から出荷されます。**

全モデル

⚠ 警告

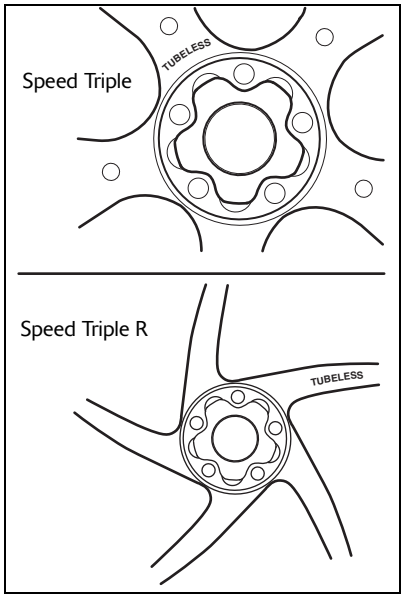
ライダーは、リアサスペンションユニットのスプリングプリロードを調整することはできません。スプリングプリロードを調整しようとすると、危険な走行状態に陥り、制御不能となって事故につながる恐れがあります。

タイヤ



典型的なタイヤマーク

本モーターバイクには、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムが装備されています。「TUBELESS（チューブレス）」のマークのついたタイヤと、リムに「TUBELESS（チューブレス用）」のマークのついたチューブレスバルブのみを使用してください。



ホイールマーク

タイヤ空気圧

適切なタイヤ空気圧は、最高の安定性と快適な乗り心地を提供し、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行なってください。タイヤ空気圧は毎日点検し、必要があれば調整してください。適切な空気圧の詳細については、仕様の章を参照してください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（取り付けてある場合）

計器パックに表示されたタイヤ空気圧は、ディスプレイを選択した時のタイヤ空気圧です。タイヤが冷えている時のタイヤ空

気圧と異なるのは、運転中にタイヤが温められてタイヤの空気が膨張し、圧力が高まったためです。Triumph が規定した冷タイヤ空気圧は、これを考慮に入れています。

高精度のタイヤ空気圧力計の使用時にタイヤが冷えている場合、オーナーはタイヤ空気圧のみを調整し、計器に表示されたタイヤ空気圧をそのまま採用しないでください。

⚠ 警告

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗し安定性に問題が生じて、コントロールが失われ、事故につながる恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があるからです。

タイヤの磨耗

トレッドが磨耗するにつれて、タイヤはパンクしたり故障をおこしやすくなります。したがって、トレッドの許容深度ギリギリまでタイヤを使用しないでください。

トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

時速 130 km/h 以下	2 mm
時速 130 km/h 以上	リア 3 mm フロント 2 mm

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

チューブレスタイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクや損傷のあるタイヤで運転すると、モーターバイクの安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、コントロールが失われて事故につながることがあります。

リムにへこみや変形がないか調べてください。損傷や欠陥のあるホイールやタイヤでの走行は危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故に帰する恐れがあります。

タイヤの交換やタイヤの安全点検については、必ず最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

タイヤの交換

Triumph 製のモーターバイクはすべて、このモデルに最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、承認されている組み合わせにふさわしい認定タイヤを使うようにすることが極めて大切です。承認されていないタイヤを装備したり、認定タイヤを承認されていない組み合わせで使うことは、モーターバイクを不安定な状態に陥らせ、事故を招く恐れがあります。ABS が装備されたモデルの場合、未認定のタイヤを装備したために生じたホイール速度の違いは、ABS コンピューターに悪影響を及ぼす恐れがあります。

承認されているタイヤの組み合わせに関する詳細は、仕様の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全で効果的な取り付けを確実にするために、必ず、必要なトレーニングを受け技能を有する、正規 Triumph ディーラーにしてもらってください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS が装備されているモデルのみ)

⚠ 注意

タイヤ空気圧センサーの位置を示す、粘着ラベルをホイールリムに貼り付けてあります。タイヤ空気圧センサーを傷つけないように、タイヤ交換時には注意します。タイヤは必ず正規 Triumph ディーラーに取り付けてもらい、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることを通知してください。

⚠ 警告

推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイールスピードに悪影響を及ぼし、Triumphトラクションコントロールが動作しなくなる可能性があります。そのため、通常ならTriumphトラクションコントロールが機能するはずの状況でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ABSが装備されているモデルの場合、ABSコンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用した場合、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABSが作動しない恐れがあり、そのため普通ならABSが作動する状況下でも、バランスを崩して事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

タイヤがパンクした場合は、交換しなければなりません。パンクしたタイヤを交換しない、あるいは修繕したタイヤで走行すると、不安定な状態になり、制御不能に陥って事故につながることがあります。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

カーブに突き当たったりして、タイヤの損傷の可能性がある場合は、最寄りの正規Triumphディーラーに依頼して、タイヤの内側と外側の両方を点検してもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままでモーターバイクを運転すると、制御性が損なわれて事故を招く場合があります。

⚠ 警告

タイヤの交換が必要な時は、最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。承認リストの中から正しい組み合わせのタイヤが選択されるよう手筈を整え、タイヤメーカーの指示に従って取り付けを致します。

タイヤを交換した時は、リムに馴染むまで余裕をみてください（約 24 時間）。馴染むまでの間は、慎重に運転してください。タイヤがぴったりはまっていないと、制御不能に陥って事故を引き起こすことがあります。

新しいタイヤは、最初の内は、摩耗したタイヤとは異なるハンドリング特性を発揮します。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるまで、十分な走行距離（約 160 km）を見込んでおく必要があります。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ圧を調べて調整し、タイヤが正しくはめ込まれているか点検してください。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 km 走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

⚠ 警告

不適切なタイヤの取り付け、タイヤ空気圧の調整の不備、ハンドリング特性に慣れていないといった状態の時にモーターバイクを運転すると、コントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用されてきたタイヤは、損傷を受けていることがあります。タイヤは、外観を見ただけでは損傷が分からないことがあります。そのような使い方をした後のタイヤは交換しなければなりません。傷んだタイヤを使い続けると不安定な状態になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるからです。

⚠ 警告

モータバイクの安全で安定した操縦には、精確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

タイヤを交換した後など、ホイールバランスの調整が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

自動接着性のウェイト以外は使わないでください。クリップオンウエイトは、ホイールやタイヤに損傷を与え、タイヤの空気圧を低下させるため、コントロールが失われて事故に帰する恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる時があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

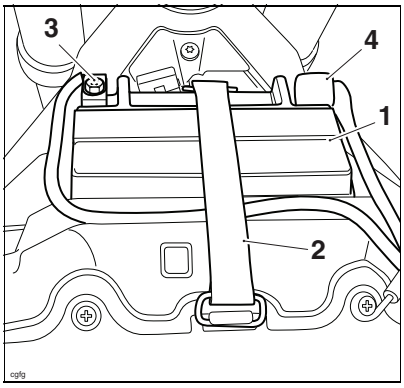
⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにジャンプリードを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。そのようなことをすると火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故を起こす危険があります。

バッテリーの取り外し

燃料タンクを持ち上げて保持します（*84* ページを参照）。



1. **バッテリー**
2. **バッテリーストラップ**
3. **マイナス（黒）端子**
4. **プラス（赤）端子**

バッテリーストラップを外します。

最初にマイナス（黒）の方からバッテリーのリード線を外します。

バッテリーをケースから出してください。

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してくれます。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があって有毒であり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管だけしている場合に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

バッテリの放電

⚠ 注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの放電

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーの充電を行ってください（*113*ページを参照）。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化を発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

⚠ 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します；火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が12.7 V以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。必ずバッテリー充電器のメーカーの指針に従ってください。

長期（2 週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

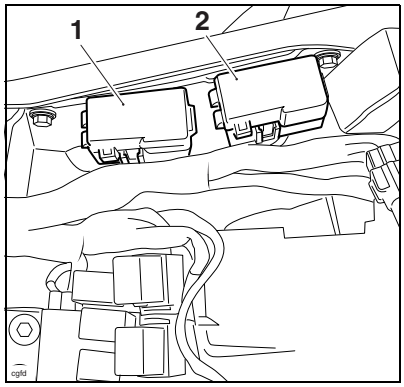
腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。

プラスの端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

燃料タンクを下げて固定します（*85* ページを参照）。

ヒューズボックス



1. フロントヒューズボックス
2. リアヒューズボックス

2個のヒューズボックスはシートの真下にあります。

⚠ 警告

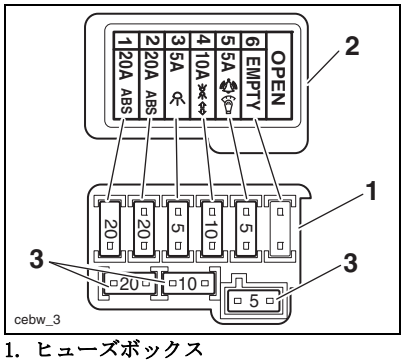
ヒューズが切れた時は、必ず正しい定格（ヒューズボックスのカバーに明記されているとおり）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。適切でないヒューズを使うと、電装系統がトラブルを起こす可能性があり、モーターバイクに損傷を与えて制御不能に陥らせ、事故を招く恐れがあります。

ヒューズの識別

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。ヒューズ切れをチェックする際、表を参考にしてどのヒューズが切れたかを突き止めてください。

表に載っているヒューズ識別番号は、以下のようにヒューズボックスカバーに印刷されている番号と対応しています。スペアヒューズはメインヒューズと直角に置かれており、スペアヒューズを使ったら補充してください。

フロントヒューズボックス



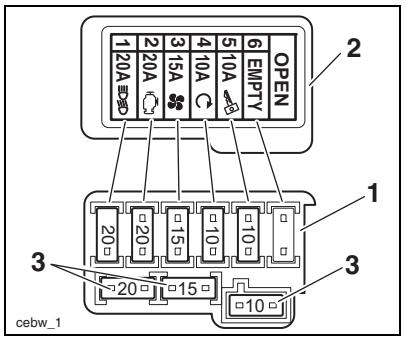
1. ヒューズボックス
2. ヒューズボックスカバー
3. スペアヒューズ

注記：

- **ABS の付いていないモーターバイクの場合、ヒューズ位置 1 と 2 には何もありません。**

保護回路	位置	定格（アンペア）
ABS	1	20
ABS	2	20
ライセンスプレートライト	3	5
リアライト、方向指示器、サイドライト	4	10
アラーム、計器ライト	5	5
空	6	-

リアヒューズボックス

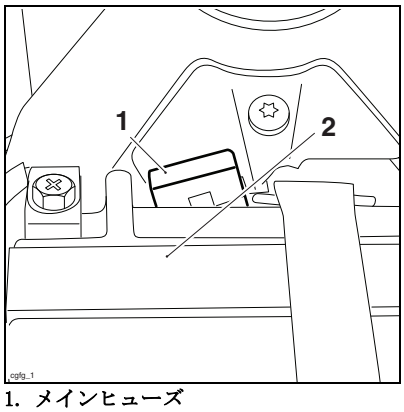


1. ヒューズボックス
2. ヒューズボックスカバー
3. スペアヒューズ

保護回路	位置	定格 (アンペア)
ディプおよびメイン ビームヘッドライト	1	20
エンジン管理システム	2	20
冷却ファン	3	15
燃料ポンプ	4	10
イグニッションスイッチ	5	10
空	6	–

メインヒューズ

30 A メインヒューズは、バッテリー前にあります。このヒューズ作業ができるように、燃料タンクのフロントパネルを取り外す必要があります。



1. メインヒューズ
2. バッテリー

ヘッドライト

ヘッドライト

⚠ 警告

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が損われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

走行中には絶対ヘッドライトビームを調整しないでださい。

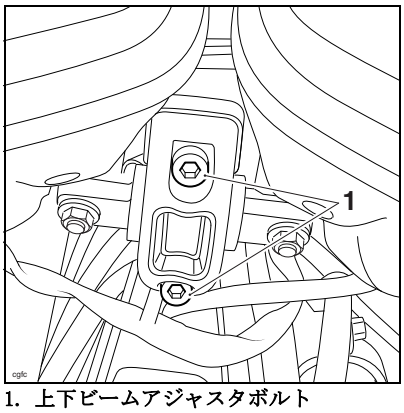
走行中にヘッドライトビームの調整を試みた場合、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

定められたコースでモータバイクを運転する場合、目につくヘッドライト外面にテープを貼るように言われます。

テープを貼ると、ヘッドライトの外面が熱を帯びてゆがみます。ヘッドライトが変形しないようにするため、定められたコースで運転する時にテープを貼る際、必ずヘッドライトを切ってください。

ヘッドライトの調整 －上下方向



1. 上下ビームアジャスタボルト

左右のヘッドライトビームの上下調整は一緒に行なうことしかできません。個別の調整は不可能です。

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ヘッドライトを限られた範囲内で動かせるように、クランプボルトを十分ゆるめます。

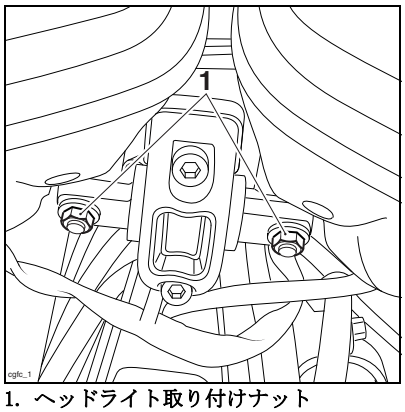
ヘッドライトの位置を、所要のビーム設定が得られるように調整します。

クランプボルトを前方から最初に**15 Nmで締めつけます**。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

ビームが適切に設定されたら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

ヘッドライトの調整 －左右方向



1. ヘッドライト取り付けナット

両方のヘッドライトは共に、左右方向のビームを個別に調整することができます。いずれのヘッドライトの調整も、同じ手順で行なわれます。

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ヘッドライト取り付けナットを緩めます。

ヘッドライトの水平位を、所要のビーム設定が得られるように調整します。

ナットを **30 Nm** で締めつけます。

2番目のヘッドライトも同じ手順を繰り返します。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

両方のビームが適切に設定されたら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

ヘッドライトの電球交換

⚠ 警告

電球は使用中は熱くなります。時間を十分かけて電球を冷ましてから、取り扱ってください。電球のガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

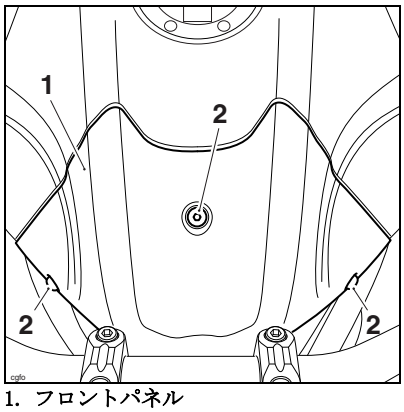
⚠ 注意

承認されていないヘッドライトバルブを使用すると、ヘッドライトレンズを損傷する恐れがあります。

Triumph 部品カタログに掲載されている、Triumph 供給の純正ヘッドライトバルブを使ってください。

ヘッドライトバルブの交換は、必ず正規 Triumph ディーラーに依頼してください。

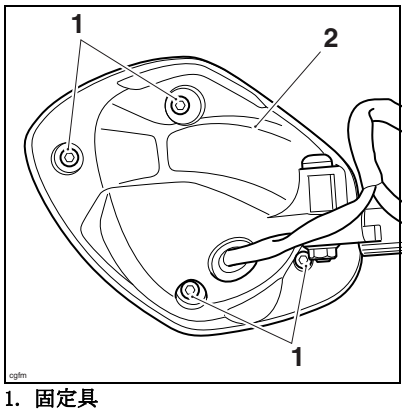
3 個の固定具を緩め、燃料タンクからフロントパネルを外します。



1. フロントパネル
2. 固定具

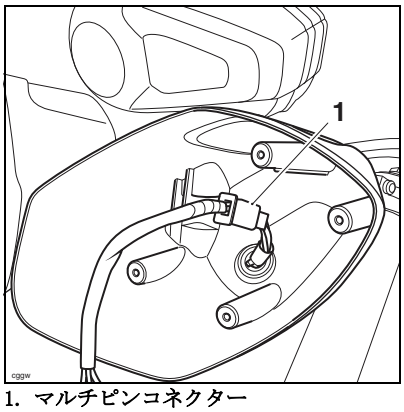
最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

ヘッドライトを支えている間、固定具を外し、ボウルからヘッドライトを取り外します。



1. 固定具
2. ヘッドライトボウル

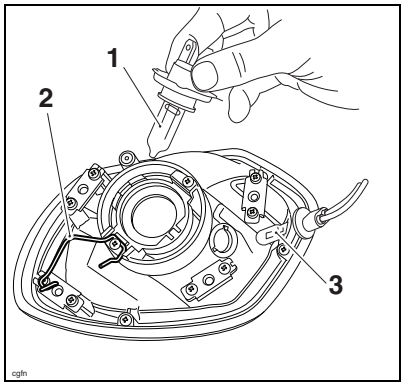
マルチピンコネクターをメインハーネスから外し、ヘッドライトを取り外します。



1. マルチピンコネクター

バルブからマルチピン電気コネクタを外し、ゴムカバーを取り外します。

ワイヤリテーナーをクリップから離し（ネジは外さない）てから、バルブをライトユニットから外します。



1. ヘッドライト電球
2. 電球クリップ
3. ポジションランプバルブ

ポジションランプバルブの取り外し：

ワイヤーを引っ張らずに、バルブホルダーをソケットからゆっくり外します。電球を徐々に上に引っ張って、ホルダーから外します。

両方の電球の取り付けは、取り外し手順を逆に行なってください。ヘッドライト固定具を **3 Nm** で締め付けます。

⚠ 注意

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。

⚠ 警告

組立作業が完了するまで、バッテリーを再接続しないでください。作業の途中で再接続すると、バッテリーガスに引火して負傷事故をもたらしかねません。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

フロントパネルを再び取り付け、固定具を **3 Nm** で締め付けます。

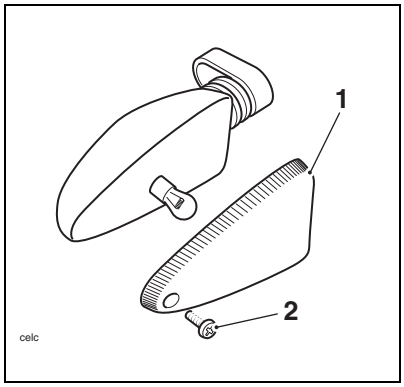
リアライト

リアライトの交換

リアライトユニットは、密封してある整備不要の LED ユニットです。

方向指示灯

バルブの交換



1. インジケーターレンズ
2. 固定ネジ

インジケーターライトのレンズは、ライトのレンズに付いているネジで固定されています。

ネジを緩めてレンズを取り外し、バルブ交換作業を行います。

ライセンスプレートライト

バルブの交換

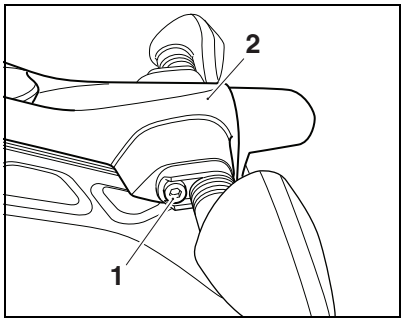
燃料タンクからフロントパネルを外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

⚠ 注意

ライト内側の固定ナットの作業にあたり、必要以上にライセンスプレートブラケットを引っ張らないでください。引っ張りすぎると、ブラケットを損傷します。

両リアインジケーターの固定具を外します。



1. 図は左側固定具
2. ライセンスプレートブラケット

慎重にライセンスプレートブラケットを持ち上げ、ロックナット作業を行います。

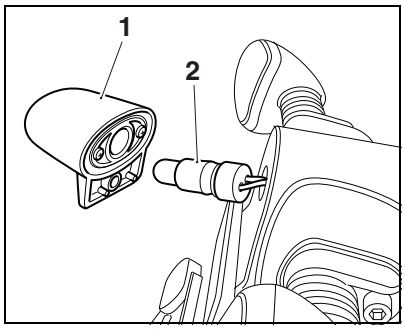
ロックナットが回転しないように逆方向に押さえ、ライセンスプレートライトの固定具を取り外します。ロックナットを回収します。

ライトをブラケットから取り外します。電気コネクターを外す必要はありません。

⚠ 注意

ケーブルの損傷を避けるため、ケーブルでバルブホルダーを引っぱらないでください。バルブホルダーだけを引っ張ります。

慎重にバルブホルダーをライトユニット背部から外します。バルブを外します。



1. ライセンスプレートライト
2. バルブホルダー

以下の事項に注意して、取り外した時と逆の手順で取り付けを行ないます：

ランプ固定具を 2 Nm で締め付けます。

リアインジケーター固体具を 3 Nm で締め付けます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

フロントパネルを再び取り付け、サイド固定具を 3 Nm で締め付けます。

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。

クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗い布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗い布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ヘッドストックベアリング
- 吸気ダクト.

⚠ 注意

燃料タンクの下に水を吹きつけないでください。吸気ダクトの周囲に吹きかけられた水はエアボックスとエンジンの中に入り込み、両方に損傷を与える可能性があります。

⚠ 注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- **アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。**

洗車後

ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。

ピボット、ボルト、ナット類に注油します。

モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。

乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

⚠ 警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア

⚠ 注意

シートのクリーニングに、化学薬品や高圧洗浄機の使用は奨励しません。化学薬品や圧縮洗浄剤は、シートカバーを損ないます。

外見を保つため、石鹸と水を含ませたスポンジとクリーニング用布で、シートを洗浄してください。

塗装されていないアルミニウム部品

一部モデルのブレーキやクラッチレバーといった品目、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨークは、適切に清掃して外観を保ちます。モーターバイクの未塗装アルミニウム部品がどれか分からない場合、ディーラーにお問い合わせください。

研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。

アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。 特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。同じことが、クロームメッキを施し磨いたステンレススチールとカーボンファイバー製の部品に対しても言えます。

注記：

- **水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。**

洗浄

水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。

柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。

排気装置を徹底的にすすいでください。

サイレンサーに石鹸水や水が入らないようにしてください。

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。 水滴の跡が残ります。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect」を表面にすり込みます。

⚠ 注意

シリコンを含む製品を使うとクロムの変色を招くことがありますので、使わないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

このページは意図的に空白にしてあります

保管

保管前の準備

モーターバイクを完全に清掃し、乾燥させます。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

各シリンダーからスパークプラグをひとつずつ外し、エンジンオイルを数滴(5 cc)それぞれのシリンダーに落とします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、12 Nm のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（*77*ページを参照)。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（*106*ページを参照)。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。(これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください)

塗装されていない金属面に防錆油(市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください）をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します(*89*ページを参照)。

冷却装置は、クーラント（Triumph 提供の HD4X ハイブリッド OAT クーラントは、事前に混合してあるので希釈は不要です)と蒸留水を50%ずつ混合した溶液で充填します（*81* ページを参照)。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電(1 アンペア以下）してください（*111* ページを参照)。

モーターバイクは、ひんやりとして乾燥し、直射日光が射さず、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

モーターバイクにカバーをかけ、ほこりやごみが積もらないように適切な多孔性カバーをしてください。プラスチックのような通気性のない、熱や湿気のこもりやすい材質の被覆が施された材質の物は避けてください。

保管後の走行準備

バッテリーを再度取り付けます（*111*ページを参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモータバイクの場合、エンジンオイルを交換してください（*77*ページを参照）。

日常の安全点検の項に記載されている項目をすべてチェックします。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し12 Nmのトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（*106*ページを参照）。

車体全体をくまなくきれいにします。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

仕様

寸法

全長	2,100 mm
全幅	795 mm
全高	1,110 mm
輪間距離	1,435 mm
シート高	825 mm

重量

ウェットウエイト	214 kg
最大車載重量	195 kg

エンジン

タイプ	直列３気筒
排気量	1050 cc
ボア x ストローク	79 x 71.4 mm
圧縮比	12.0:1
シリンダナンバー	左から右へ
シリンダー順番	左側が 1
点火順	1-2-3
始動方式	電動スターター

性能

最大出力 (DIN 95/1/EC)	135 PS/9,400 rpm
最大トルク	111 Nm/7,750 rpm

仕様

潤滑

潤滑.	強制潤滑（ウェットサンプ方式）
エンジンオイル容量	
ドライフィル.	3.5 リッター
オイル / フィルターの交換.	3.2 リッター
オイルチェンジのみ.	3.0 リッター

クーリング

クーラントタイプ.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
水 / 不凍剤比.	50 対 50（Triumph が事前に混合して提供）
クーラント容量.	2.4 リッター
サーモスタット開（公称）.	85℃

燃料システム

タイプ.	電子燃料噴射
インジェクター.	ソレノイド作動式
燃料ポンプ.	サブマージ電動型
燃料圧（公称）.	3 バール

燃料

タイプ.	無鉛 95 RON
タンク容量.	17.5 リッター

イグニッション

点火方式.	デジタル誘導式
電子レブリミター (r/min).	9,500 (r/min)
スパークプラグ.	NGK CR8EK
スパークプラグの隙間.	隙間 0.7 mm
許容隙間.	+0.05/-0.1 mm

トランスミッション

タイプ.	6 速、常時噛合式
クラッチ.	湿式多版
ファイナルドライブチェーン.	DID X-リング
プライマリドライブ比.	1.75:1 (60/105)
歯車比：	
ファイナルドライブ比.	2.333:1 (18/43)
1 速	2.733:1 (15/41)
2 速	1.947:1 (19/37)
3 速	1.545:1 (22/34)
4 速	1.292:1 (24/31)
5 速	1.154:1 (26/30)
6 速	1.074:1 (27/29)

仕様

タイヤ

タイヤ空気圧（冷寒時）：

フロント.	2.35 バール
リア.	2.90 バール
フロントサイズ.	120/70 ZR17
リアサイズ.	190/55 ZR17

認可タイヤ - Speed Triple

オプション1、フロントおよびリア. .	Metzeler Racetec K3 Interact
オプション2、フロントおよびリア. .	Bridgestone Battlax BT003 RS
オプション3、フロントおよびリア. .	Bridgestone Battlax BT016
オプション4、フロントおよびリア. .	Pirelli Diablo Rosso
オプション5、フロントおよびリア. .	Michelin Power Pure
オプション6、フロントおよびリア. .	Michelin Pilot Power 2CT

認可タイヤ - Speed Triple R

オプション1、フロントおよびリア. .	Pirelli Diablo Supercorsa SP
オプション2、フロントおよびリア. .	Metzeler Racetec K3
オプション3、フロントおよびリア. .	Bridgestone BT016
オプション4、フロントおよびリア. .	Michelin Pilot Power 2CT

⚠ 警告

推奨されたタイヤだけを指定の組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。混用すると、モーターバイクのコントロールが失われて事故を招く結果になりかねません。

電装品

バッテリー.	12V、12Ah
オルタネーター.	12V、35A
ヘッドライト.	2 x 12V 60/55W H4 ハロゲン
テール / ブレーキライト.	LED
方向指示灯.	12V、10W

フレーム

すくい角.	23.0°
トレール.	91 mm

締付トルク

オイルフィルター.	10 Nm
オイルドレンプラグ.	25 Nm
スパークプラグ.	12 Nm
リアホイールエキセントリッククランプボルト.	55 Nm

仕様

フルードと潤滑剤

エンジンオイル.	API SH （またはそれ以上）と JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、国によってはCastrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されている、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）。
ブレーキフルード.	DOT 4 ブレーキクラッチフルード
クーラント.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
ベアリングとピボット.	NLGI 2 仕様を満たしたグリース
ドライブチェーン.	O リングチェーンに適したチェーンスプレー

索引（あいうえお順）

アクセサリー 67
安全 5
　整備 / 装備 9
　駐車 8
　日常点検 53
　燃料と排気ガス 5
　ハンドルとフットレスト 7
　部品とアクセサリー 8
　ヘルメットと防護服 7
　モーターバイク 5
　ライディング 6
イグニッション 129
　キー 41
　スイッチ / ステアリングロック . 42
ABS （アンチ - ロックブレーキシステム）インジケーターランプ . . 40
エンジン
　エンジンの始動 56
　エンジンの停止 56
　仕様 127
　シリアル番号 15
エンジンオイル 77
　オイルとフィルターの交換 . . . 79
　オイルとフィルターの処分 . . . 80
　オイルレベルの点検 78
　等級と仕様 80
ギア
　ギアチェンジ 58
　ギアチェンジライト 28
クーラント温度計 34
クラッチ 88
　調整 89
　点検 89
クリーニング 121
　乾燥 123
　準備 121
　洗車後 122
　洗浄 123
　注意すべき部分 121
　塗装されていないアルミニウム部品 122
　排気装置 123
　保護 123
計器盤 20
　スピードメーター 21
　タコメーター 21
　単位変更 25
　時計の調節 24
　トリップメーター 23
警告
　警告・注意・注記 1
　警告ラベル 2
　警告ラベルの位置 10
警告灯 38
シートケア 50
シートロック 50
締付トルク 131
車体識別番号 15
重量 127
潤滑 128
スタンド 49
　サイドスタンド 49
ステアリング / ホイールベアリング . 97
　点検 98
スロットルコントロール 85
寸法 127
性能 127
タイヤ 106, 130
　空気圧 106
　交換 108
　トレッドの最小深度 107
タイヤ空気圧警告灯 40
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS） 35
ツールキット 49
電装品 131
ドライブチェーン 89

索引（あいうえお順）

トランスミッション 129
　潤滑 90
　たるみ調整 91
　たるみ点検 90
　磨耗点検 92
慣らし運転 52
燃料 128
燃料システム 128
燃料の条件 46
　燃料タンクへの給油 48
　燃料の等級 46
　フューエルタンクキャップ . . . 47
バッテリー 111
　充電 113
　処分 112
　整備 112
　取り付け 113
　取り外し 111
左ハンドルスイッチ 45
　パスボタン 46
　ヘッドライトディップスイッチ . 45
　ホーンボタン 46
　方向指示器スイッチ 46
ヒューズボックス 114
部品の名称 12
フルードと潤滑剤 132
ブレーキ 93
　ディスクブレーキフルード . . . 95
　パッドの磨耗補正 94
　フルードレベル 96
　ブレーキ操作 59
　ブレーキとクラッチレバーアジャスタ 43
　磨耗点検 93
　ライトスイッチ 97
フレーム 131
フロントサスペンション 99
　圧側減衰の調整 102, 103
　スプリングプリロードの調整 . 101
　設定値表 99
　フォークの点検 99
ヘッドライト 116
　左右調整 117
　上下調整 116
　バルブの交換 117
方向指示灯 119
保管
　保管後の走行準備 126
　保管前の準備 125
右ハンドルスイッチ 44
　エンジンストップスイッチ . . . 44
　スターターボタン 45
ライセンスプレートライト 120
リアライト 119
冷却装置 81, 128
　交換 83
　腐食防止剤 81
　レベルの調整 82
　レベルの点検 82